

財 産 目 録

令和7年3月31日現在

I 資産額	3,255,928,038 円
内 基本財産	2,931,917,114 円
運用財産	324,010,924 円
II 負債額	190,422,285 円
III 正味財産（資産額－負債額）	3,065,505,753 円

科 目	令和6年度末	
一 資産額		
(一)基本財産		
1 土地		
倉敷校地	68,534.87 m ²	337,543,850 円
鴨方校地	15,310.81 m ²	28,135,724 円
里庄校地	19,483.00 m ²	0 円
2 建物	24,924.97 m ²	2,003,311,562 円
3 構築物		1,513,258 円
4 図書		448,773,199 円
5 教具・校具・備品		112,639,517 円
6 車輛		4 円
(二)運用財産		
1 現金預金		78,246,572 円
2 積立金		209,519,708 円
3 電話加入権		2,924,514 円
4 預託金		9,110 円
5 販売用品		1,324,930 円
6 未収入金		31,918,900 円
7 前払金		67,190 円
合 計		3,255,928,038 円
二 負債額		
1 固定負債		
(1) 長期未払金		86,647 円
(2) 退職給与引当金		114,550,822 円
2 流動負債		
(1) 前受金		15,323,500 円
(2) 未払金		54,268,025 円
(3) 預り金		6,193,291 円
合 計		190,422,285 円
三 正味財産（資産額－負債額）	3,065,505,753 円	

基本財産とは、岡山学院大学及び岡山短期大学に必要な施設及び設備又はこれらに要する財産、
運用財産とは、岡山学院大学及び岡山短期大学の経営に必要な財産です。

令和 6 年 度

令和 6 年 4 月 1 日 から
令和 7 年 3 月 31 日 まで

計 算 書 類

資 金 収 支 計 算 書
資 金 収 支 内 訳 表
人 件 費 支 出 内 訳 表
活 動 区 分 資 金 収 支 計 算 書
事 業 活 動 収 支 計 算 書
事 業 活 動 収 支 内 訳 表
貸 借 対 照 表
固 定 資 産 明 細 表
借 入 金 明 細 表
基 本 金 明 細 表

学校法人 原田学園

資 金 収 支 計 算 書

令和 6年4月 1日から
令和 7年3月31日まで

(単位 円)

収入の部				
科	目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入		137,282,000	137,281,929	71
授業料収入		92,720,000	92,720,000	0
入学金収入		10,520,000	10,520,000	0
教育充実費収入		21,740,000	21,740,000	0
施設設備費収入		9,682,000	9,682,000	0
学外実習手数料収入		2,620,000	2,619,929	71
手数料収入		1,163,000	1,220,200	△ 57,200
入学検定料収入		792,000	826,000	△ 34,000
試験料収入		221,000	221,000	0
証明手数料収入		150,000	173,200	△ 23,200
寄付金収入		6,887,000	6,468,444	418,556
特別寄付金収入		5,787,000	5,788,444	△ 1,444
一般寄付金収入		1,100,000	680,000	420,000
補助金収入		36,944,000	42,136,000	△ 5,192,000
国庫補助金収入		36,490,000	41,811,100	△ 5,321,100
地方公共団体補助金収入		454,000	324,900	129,100
資産売却収入		0	0	0
付随事業・収益事業収入		83,000	91,000	△ 8,000
公開講座収入		83,000	91,000	△ 8,000
受取利息・配当金収入		0	0	0
雑収入		32,923,000	34,381,642	△ 1,458,642
施設設備利用料収入		34,000	34,110	△ 110
私立大学退職金財団交付金収入		31,889,000	33,089,360	△ 1,200,360
その他の雑収入		1,000,000	1,258,172	△ 258,172
借入金等収入		0	0	0
前受金収入		14,845,000	15,323,500	△ 478,500
授業料前受金収入		8,650,000	9,075,000	△ 425,000
入学金前受金収入		2,935,000	2,935,000	0
教育充実費前受金収入		2,200,000	2,255,000	△ 55,000
施設設備費前受金収入		1,060,000	1,058,500	1,500
その他の収入		216,316,750	216,295,940	20,810
退職給与引当特定資産取崩収入		13,600,000	13,579,190	20,810
減価償却引当特定資産取崩収入		200,000,000	200,000,000	0
前期末未収入金収入		1,716,750	1,716,750	0
補助活動事業元入金回収収入		1,000,000	1,000,000	0
資金収入調整勘定		△ 56,130,000	△ 57,508,900	1,378,900
期末未収入金		△ 30,540,000	△ 31,918,900	1,378,900
前期末前受金		△ 25,590,000	△ 25,590,000	0
前年度繰越支払資金		93,064,263	93,064,263	
収入の部合計		483,378,013	488,754,018	△ 5,376,005
支出の部				
科	目	予 算	決 算	差 異
人件費支出		252,086,900	250,609,679	1,477,221
教員人件費支出		142,000,000	140,765,772	1,234,228
職員人件費支出		61,000,000	60,758,143	241,857
役員報酬支出		2,080,000	2,078,864	1,136
退職金支出		47,006,900	47,006,900	0
教育研究経費支出		105,620,000	102,604,050	3,015,950
消耗品費支出		3,200,000	3,061,564	138,436
光熱水費支出		19,000,000	18,124,359	875,641
旅費交通費支出		1,800,000	1,736,708	63,292
奨学費支出		20,820,000	20,810,100	9,900
通信費支出		1,700,000	1,690,192	9,808
印刷製本費支出		600,000	552,849	47,151
修繕費支出		17,000,000	16,195,638	804,362
損害保険料支出		1,050,000	1,040,110	9,890
会議会合費支出		110,000	107,800	2,200
行事費支出		30,000	26,376	3,624
負担金支出		4,520,000	4,494,080	25,920
リース料支出		240,000	235,290	4,710
支払報酬手数料支出		30,000,000	29,156,718	843,282
福利費支出		3,400,000	3,339,544	60,456
学外実習費支出		2,100,000	2,000,929	99,071
雑費支出		50,000	31,793	18,207

管理経費支出	60,352,520	58,807,783	1,544,737
消耗品費支出	1,800,000	1,629,843	170,157
光熱水費支出	1,600,000	1,426,910	173,090
旅費交通費支出	1,300,000	1,149,255	150,745
車輛燃料費支出	170,000	108,911	61,089
通信費支出	1,500,000	1,303,213	196,787
印刷製本費支出	4,522,979	4,522,979	0
修繕費支出	180,000	171,445	8,555
損害保険料支出	300,000	294,430	5,570
会議会合費支出	140,000	124,721	15,279
公租公課支出	500,000	429,430	70,570
負担金支出	2,500,000	2,336,295	163,705
リース料支出	160,000	155,628	4,372
支払報酬手数料支出	17,002,910	17,002,910	0
渉外費支出	800,000	779,675	20,325
福利費支出	300,000	228,120	71,880
広告費支出	11,000,000	10,888,796	111,204
補助活動事業支出	11,000,000	10,783,051	216,949
70周年記念費用支出	4,549,631	4,549,631	0
私立大学等経常費補助金返還金支出	627,000	627,000	0
雑費支出	400,000	295,540	104,460
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	0	0	0
設備関係支出	44,400,000	37,952,274	6,447,726
教育研究用機器備品支出	42,000,000	36,592,859	5,407,141
管理用機器備品支出	400,000	0	400,000
図書支出	2,000,000	1,359,415	640,585
資産運用支出	1,000,000	1,000,000	0
補助活動事業元入金支払支出	1,000,000	1,000,000	0
その他の支出	12,814,921	12,814,921	0
前期末未払金支払支出	12,633,648	12,633,648	0
預り金支出	114,083	114,083	0
前払金支払支出	67,190	67,190	0
〔予備費〕	(1,510,693)		
	18,489,307		18,489,307
資金支出調整勘定	△ 53,053,000	△ 53,281,261	228,261
期末未払金	△ 53,000,000	△ 53,228,261	228,261
前期末前払金	△ 53,000	△ 53,000	0
翌年度繰越支払資金	41,667,365	78,246,572	△ 36,579,207
支出の部合計	483,378,013	488,754,018	△ 5,376,005

注1 予備費の使用額

人件費支出の退職金支出	1,006,900
管理経費支出の印刷製本費支出	322,979
〃 の支払報酬手数料支出	2,910
〃 の70周年記念費用支出	49,631
その他の支出の預り金支出	114,083
〃 の前払金支払支出	14,190
合 計	1,510,693 円

資金収支計算書とは、当該会計年度における学校法人全体の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。当該会計年度の資金収入のうち前期末前受金及び期末未収入金は、収入の部の控除科目として、収入の部に計上しています。また、資金支出のうち前期末前払金及び期末未払金は、支出の部の控除科目として、支出の部に計上しています。

令和6年度決算において、収入の部では、特定資産の取崩収入を除くと、学生生徒等納付金収入の1億3728万1929円、補助金収入の4213万6000円及び前受金収入の1532万3500円が収入の大半を占めています。

また、支出の部では、人件費支出の2億5060万9679円、教育研究経費支出の1億260万4050円、管理経費支出の5880万7783円が大きな割合を占めています。

資 金 収 支 内 訳 表

令和 6年4月 1日から
令和 7年3月31日まで
収 入 の 部

(単位 円)

部 門 科 目	学 校 法 人	岡 山 学 院 大 学	岡 山 短 期 大 学	総 額
		人 間 生 活 学 部	幼 児 教 育 学 科	
学生生徒等納付金収入	0	74,578,000	62,703,929	137,281,929
授業料収入	0	51,800,000	40,920,000	92,720,000
入学金収入	0	4,250,000	6,270,000	10,520,000
教育充実費収入	0	11,840,000	9,900,000	21,740,000
施設設備費収入	0	5,920,000	3,762,000	9,682,000
学外実習手数料収入	0	768,000	1,851,929	2,619,929
手数料収入	0	403,000	817,200	1,220,200
入学検定料収入	0	202,000	624,000	826,000
試験料収入	0	134,000	87,000	221,000
証明手数料収入	0	67,000	106,200	173,200
寄付金収入	0	3,611,145	2,857,299	6,468,444
特別寄付金収入	0	3,271,145	2,517,299	5,788,444
一般寄付金収入	0	340,000	340,000	680,000
補助金収入	0	8,849,900	33,286,100	42,136,000
国庫補助金収入	0	8,652,300	33,158,800	41,811,100
地方公共団体補助金収入	0	197,600	127,300	324,900
資産売却収入	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	0	0	91,000	91,000
公開講座収入	0	0	91,000	91,000
受取利息・配当金収入	0	0	0	0
雑収入	12,000	2,359,394	32,010,248	34,381,642
施設設備利用料収入	12,000	11,586	10,524	34,110
私立大学退職金財団交付金収入	0	1,585,880	31,503,480	33,089,360
その他の雑収入	0	761,928	496,244	1,258,172
借入金等収入	0	0	0	0
計	12,000	89,801,439	131,765,776	221,579,215

支 出 の 部

(単位 円)

部 門 科 目	学 校 法 人	岡 山 学 院 大 学	岡 山 短 期 大 学	総 額
		人 間 生 活 学 部	幼 児 教 育 学 科	
人件費支出	2,078,864	99,649,673	148,881,142	250,609,679
教員人件費支出	0	70,678,257	70,087,515	140,765,772
職員人件費支出	0	27,284,216	33,473,927	60,758,143
役員報酬支出	2,078,864	0	0	2,078,864
退職金支出	0	1,687,200	45,319,700	47,006,900
教育研究経費支出	0	57,385,469	45,218,581	102,604,050
消耗品費支出	0	2,119,545	942,019	3,061,564
光熱水費支出	0	9,689,929	8,434,430	18,124,359
旅費交通費支出	0	732,101	1,004,607	1,736,708
奨学費支出	0	11,502,300	9,307,800	20,810,100
通信費支出	0	832,301	857,891	1,690,192
印刷製本費支出	0	322,742	230,107	552,849
修繕費支出	0	9,691,122	6,504,516	16,195,638
損害保険料支出	0	556,483	483,627	1,040,110
会議会合費支出	0	56,487	51,313	107,800
行事費支出	0	13,821	12,555	26,376
負担金支出	0	3,823,660	670,420	4,494,080
リース料支出	0	189,454	45,836	235,290
支払報酬手数料支出	0	15,193,512	13,963,206	29,156,718
福利費支出	0	2,060,313	1,279,231	3,339,544
学外実習費支出	0	569,906	1,431,023	2,000,929
雑費支出	0	31,793	0	31,793

管理経費支出	7,044,280	25,163,423	26,600,080	58,807,783
消耗品費支出	0	884,526	745,317	1,629,843
光熱水費支出	8,980	742,995	674,935	1,426,910
旅費交通費支出	620,228	277,981	251,046	1,149,255
車輛燃料費支出	0	57,069	51,842	108,911
通信費支出	0	683,331	619,882	1,303,213
印刷製本費支出	0	3,369,481	1,153,498	4,522,979
修繕費支出	0	89,837	81,608	171,445
損害保険料支出	53,000	126,509	114,921	294,430
会議会合費支出	0	65,354	59,367	124,721
公租公課支出	160,920	140,699	127,811	429,430
負担金支出	0	873,767	1,462,528	2,336,295
リース料支出	0	81,549	74,079	155,628
支払報酬手数料支出	6,119,950	5,750,405	5,132,555	17,002,910
渉外費支出	81,202	311,989	386,484	779,675
福利費支出	0	109,055	119,065	228,120
広告費支出	0	5,273,473	5,615,323	10,888,796
補助活動事業支出	0	5,680,280	5,102,771	10,783,051
70周年記念費用支出	0	0	4,549,631	4,549,631
私立大学等経常費補助金返還金支出	0	562,000	65,000	627,000
雑費支出	0	83,123	212,417	295,540
借入金等利息支出	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0
施設関係支出	0	0	0	0
設備関係支出	0	19,473,362	18,478,912	37,952,274
教育研究用機器備品支出	0	18,745,820	17,847,039	36,592,859
図書支出	0	727,542	631,873	1,359,415
計	9,123,144	201,671,927	239,178,715	449,973,786

人 件 費 支 出 内 訳 表

令和 6年4月 1日から
令和 7年3月31日まで

(単位 円)

部 門 科 目	学 校 法 人	岡 山 学 院 大 学	岡 山 短 期 大 学	総 額
		人 間 生 活 学 部	幼 児 教 育 学 科	
教員人件費支出	0	70,678,257	70,087,515	140,765,772
本務教員	0	66,603,824	65,524,572	132,128,396
本俸	0	50,627,379	51,122,217	101,749,596
期末手当	0	3,134,421	3,808,429	6,942,850
その他の手当	0	4,057,177	2,206,345	6,263,522
所定福利費	0	6,327,597	5,770,831	12,098,428
私立大学退職金財団負担金	0	2,457,250	2,616,750	5,074,000
兼務教員	0	4,074,433	4,562,943	8,637,376
職員人件費支出	0	27,284,216	33,473,927	60,758,143
本務職員	0	27,259,263	33,451,260	60,710,523
本俸	0	19,040,136	22,408,800	41,448,936
期末手当	0	1,317,913	1,963,666	3,281,579
その他の手当	0	2,123,746	3,265,024	5,388,770
所定福利費	0	3,363,218	4,180,270	7,543,488
私立大学退職金財団負担金	0	1,414,250	1,633,500	3,047,750
兼務職員	0	24,953	22,667	47,620
役員報酬支出	2,078,864	0	0	2,078,864
退職金支出	0	1,687,200	45,319,700	47,006,900
教員	0	230,200	44,249,600	44,479,800
職員	0	1,457,000	1,070,100	2,527,100
計	2,078,864	99,649,673	148,881,142	250,609,679

活動区分資金収支計算書

令和 6年4月 1日から
令和 7年3月31日まで

(単位 円)

教育活動による資金収支	科 目		金 額
	収 入	学生生徒等納付金収入	137,281,929
		手数料収入	1,220,200
		特別寄付金収入	5,788,444
		一般寄付金収入	680,000
		経常費等補助金収入	42,136,000
		付随事業収入	91,000
		雑収入	34,381,642
		教育活動資金収入計	221,579,215
	支 出	人件費支出	250,609,679
		教育研究経費支出	102,604,050
		管理経費支出	58,807,783
教育活動資金支出計		412,021,512	
差引		△ 190,442,297	
調整勘定等		1,709,173	
教育活動資金収支差額		△ 188,733,124	
施による整備等資金活動支	科 目		金 額
	収 入	減価償却引当特定資産取崩収入	200,000,000
		施設整備等活動資金収入計	200,000,000
	支 出	設備関係支出	37,952,274
		施設整備等活動資金支出計	37,952,274
	差引		162,047,726
	調整勘定等		△ 1,441,387
	施設整備等活動資金収支差額		160,606,339
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		△ 28,126,785	
その他の活動による資金収支	科 目		金 額
	収 入	退職給与引当特定資産取崩収入	13,579,190
		補助活動事業元入金回収収入	1,000,000
		小計	14,579,190
		その他の活動資金収入計	14,579,190
	支 出	補助活動事業元入金支払支出	1,000,000
		預り金支出	114,083
		小計	1,114,083
		その他の活動資金支出計	1,114,083
	差引		13,465,107
	調整勘定等		△ 156,013
	その他の活動資金収支差額		13,309,094
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		△ 14,817,691	
前年度繰越支払資金		93,064,263	
翌年度繰越支払資金		78,246,572	

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。

(単位 円)

項目	資金収支 計算書計上額	教育活動 による資金収支	施設整備等活動 による資金収支	その他の活動 による資金収支
前受金収入	15,323,500	15,323,500	0	0
前期末未収入金収入	1,716,750	1,716,750	0	0
期末未収入金	△ 31,918,900	△ 31,908,980	0	△ 9,920
前期末前受金	△ 25,590,000	△ 25,590,000	0	0
収入計	△ 40,468,650	△ 40,458,730	0	△ 9,920
前期末未払金支払支出	12,633,648	10,099,434	1,455,797	1,078,417
前払金支払支出	67,190	67,190	0	0
期末未払金	△ 53,228,261	△ 52,281,527	△ 14,410	△ 932,324
前期末前払金	△ 53,000	△ 53,000	0	0
支出計	△ 40,580,423	△ 42,167,903	1,441,387	146,093
収入計 — 支出計	111,773	1,709,173	△ 1,441,387	△ 156,013

活動区分資金収支計算書とは、資金収支計算書の決算額を3つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにするものです。

令和6年度決算において、教育活動による資金収支では、収入計が2億2157万9215円、支出計が4億1202万1512円となり調整勘定の170万9173円を含めた収支差額は△1億8873万3124円となっています。

施設整備等活動による資金収支では、収入計が2億円、支出計が3795万2274円となり調整勘定の△144万1387円を含めた収支差額は1億6060万6339円となっています。

その他の活動による資金収支では、収入計が1457万9190円、支出計が111万4083円となり調整勘定の△15万6013円を含めた収支差額は1330万9094円となっています。

すべての活動区分をあわせた支払資金の増減額は△1481万7691円で、前年度繰越支払資金とあわせると翌年度繰越支払資金は7824万6572円となります。

事業活動収支計算書

令和 6年4月 1日から
令和 7年3月31日まで

(単位 円)

		事業活動収入の部			
		科 目	予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部		学生生徒等納付金	137,282,000	137,281,929	71
		授業料	92,720,000	92,720,000	0
		入学金	10,520,000	10,520,000	0
		教育充実費	21,740,000	21,740,000	0
		施設設備費	9,682,000	9,682,000	0
		学外実習手数料	2,620,000	2,619,929	71
		手数料	1,163,000	1,220,200	△ 57,200
		入学検定料	792,000	826,000	△ 34,000
		試験料	221,000	221,000	0
		証明手数料	150,000	173,200	△ 23,200
		寄付金	6,887,000	6,468,444	418,556
		特別寄付金	5,787,000	5,788,444	△ 1,444
		一般寄付金	1,100,000	680,000	420,000
		経常費等補助金	36,944,000	42,136,000	△ 5,192,000
		国庫補助金	36,490,000	41,811,100	△ 5,321,100
		地方公共団体補助金	454,000	324,900	129,100
		付随事業収入	83,000	91,000	△ 8,000
		公開講座収入	83,000	91,000	△ 8,000
		雑収入	46,523,000	47,960,832	△ 1,437,832
		施設設備利用料	34,000	34,110	△ 110
		私立大学退職金財団交付金	31,889,000	33,089,360	△ 1,200,360
		退職給与引当金戻入額	13,600,000	13,579,190	20,810
		その他の雑収入	1,000,000	1,258,172	△ 258,172
		教育活動収入計	228,882,000	235,158,405	△ 6,276,405
教育活動収支	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	252,086,900	250,609,679	1,477,221
		教員人件費	142,000,000	140,765,772	1,234,228
		職員人件費	61,000,000	60,758,143	241,857
		役員報酬	2,080,000	2,078,864	1,136
		退職金	47,006,900	47,006,900	0
		教育研究経費	189,620,000	185,016,989	4,603,011
		消耗品費	3,200,000	3,061,564	138,436
		光熱水費	19,000,000	18,124,359	875,641
		旅費交通費	1,800,000	1,736,708	63,292
		奨学費	20,820,000	20,810,100	9,900
		通信費	1,700,000	1,690,192	9,808
		印刷製本費	600,000	552,849	47,151
		修繕費	17,000,000	16,195,638	804,362
		損害保険料	1,050,000	1,040,110	9,890
		会議会合費	110,000	107,800	2,200
		行事費	30,000	26,376	3,624
		負担金	4,520,000	4,494,080	25,920
		リース料	240,000	235,290	4,710
		支払報酬手数料	30,000,000	29,156,718	843,282
		福利費	3,400,000	3,339,544	60,456
		学外実習費	2,100,000	2,000,929	99,071
		雑費	50,000	31,793	18,207
		減価償却額	84,000,000	82,412,939	1,587,061
		管理経費	71,352,520	68,829,342	2,523,178
		消耗品費	1,800,000	1,629,843	170,157
		光熱水費	1,600,000	1,426,910	173,090
		旅費交通費	1,300,000	1,149,255	150,745
		車輛燃料費	170,000	108,911	61,089
		通信費	1,500,000	1,303,213	196,787
		印刷製本費	4,522,979	4,522,979	0
		修繕費	180,000	171,445	8,555
		損害保険料	300,000	294,430	5,570
		会議会合費	140,000	124,721	15,279
		公租公課	500,000	429,430	70,570
		負担金	2,500,000	2,336,295	163,705
		リース料	160,000	155,628	4,372
		支払報酬手数料	17,002,910	17,002,910	0

	渉外費		800,000	779,675	20,325
	福利費		300,000	228,120	71,880
	広告費		11,000,000	10,888,796	111,204
	補助活動事業		11,000,000	10,845,656	154,344
	70周年記念費用		4,549,631	4,549,631	0
	私立大学等経常費補助金返還金		627,000	627,000	0
	雑費		400,000	295,540	104,460
	減価償却額		11,000,000	9,958,954	1,041,046
	徴収不能額等		0	0	0
教育活動支出計		513,059,420	504,456,010	8,603,410	
教育活動収支差額			△ 284,177,420	△ 269,297,605	△ 14,879,815
教育活動外収支	事業収入の活動部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	0	0	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	0	0	0
	事業支出の活動部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		0	0	0
経常収支差額			△ 284,177,420	△ 269,297,605	△ 14,879,815
特別収支	事業収入の活動部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	40,000	40,350	△ 350
		現物寄付	40,000	40,350	△ 350
	事業支出の活動部	特別収入計	40,000	40,350	△ 350
		科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	124,634	124,634	0
		設備処分差額	124,634	124,634	0
	その他の特別支出	0	0	0	
特別支出計		124,634	124,634	0	
特別収支差額		△ 84,634	△ 84,284	△ 350	
〔予 備 費〕		(1,387,054)			
		18,612,946		18,612,946	
基本金組入前当年度収支差額		△ 302,875,000	△ 269,381,889	△ 33,493,111	
基本金組入額合計		△ 45,910,000	△ 35,795,221	△ 10,114,779	
当年度収支差額		△ 348,785,000	△ 305,177,110	△ 43,607,890	
前年度繰越収支差額		△ 4,114,688,774	△ 4,114,688,774	0	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 4,463,473,774	△ 4,419,865,884	△ 43,607,890	
(参考)					
事業活動収入計		228,922,000	235,198,755	△ 6,276,755	
事業活動支出計		531,797,000	504,580,644	27,216,356	

注1 予備費の使用額

人件費の退職金	1,006,900
管理経費の印刷製本費	322,979
〃 の支払報酬手数料	2,910
〃 の70周年記念費用	49,631
資産処分差額の設備処分差額	4,634
合 計	1,387,054 円

事業活動収支計算書とは、当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにするものです。

令和6年度決算において、教育活動収入計が2億3515万8405円、教育活動支出計が5億445万6010円で教育活動収支差額は△2億6929万7605円となっています。

教育活動外収入計は0円、教育活動外支出計も0円で教育活動外収支差額は0円です。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額をあわせた経常収支差額は、△2億6929万7605円となっています。また、特別収支差額は△8万4284円です。

すべての活動区分をあわせた事業活動収入計は2億3519万8755円、事業活動支出計は5億458万644円で、2億6938万1889円の支出超過となっています。

事業活動収支内訳表

令和 6年4月 1日から
令和 7年3月31日まで

(単位 円)

科 目		部 門	学 校 法 人	岡 山 学 院 大 学	岡 山 短 期 大 学	総 額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	0	74,578,000	62,703,929	137,281,929
		授業料	0	51,800,000	40,920,000	92,720,000
		入学金	0	4,250,000	6,270,000	10,520,000
		教育充実費	0	11,840,000	9,900,000	21,740,000
		施設設備費	0	5,920,000	3,762,000	9,682,000
		学外実習手数料	0	768,000	1,851,929	2,619,929
		手数料	0	403,000	817,200	1,220,200
		入学検定料	0	202,000	624,000	826,000
		試験料	0	134,000	87,000	221,000
		証明手数料	0	67,000	106,200	173,200
		寄付金	0	3,611,145	2,857,299	6,468,444
		特別寄付金	0	3,271,145	2,517,299	5,788,444
		一般寄付金	0	340,000	340,000	680,000
		経常費等補助金	0	8,849,900	33,286,100	42,136,000
		国庫補助金	0	8,652,300	33,158,800	41,811,100
		地方公共団体補助金	0	197,600	127,300	324,900
		付随事業収入	0	0	91,000	91,000
		公開講座収入	0	0	91,000	91,000
		雑収入	12,000	9,474,890	38,473,942	47,960,832
		施設設備利用料	12,000	11,586	10,524	34,110
		私立大学退職金財団交付金	0	1,585,880	31,503,480	33,089,360
		退職給与引当金戻入額	0	7,115,496	6,463,694	13,579,190
		その他の雑収入	0	761,928	496,244	1,258,172
		教育活動収入計	12,000	96,916,935	138,229,470	235,158,405
	事業活動支出の部	人件費	2,078,864	99,649,673	148,881,142	250,609,679
		教員人件費	0	70,678,257	70,087,515	140,765,772
		職員人件費	0	27,284,216	33,473,927	60,758,143
		役員報酬	2,078,864	0	0	2,078,864
		退職金	0	1,687,200	45,319,700	47,006,900
		教育研究経費	0	100,569,849	84,447,140	185,016,989
		消耗品費	0	2,119,545	942,019	3,061,564
		光熱水費	0	9,689,929	8,434,430	18,124,359
		旅費交通費	0	732,101	1,004,607	1,736,708
		奨学費	0	11,502,300	9,307,800	20,810,100
		通信費	0	832,301	857,891	1,690,192
		印刷製本費	0	322,742	230,107	552,849
		修繕費	0	9,691,122	6,504,516	16,195,638
		損害保険料	0	556,483	483,627	1,040,110
		会議会合費	0	56,487	51,313	107,800
		行事費	0	13,821	12,555	26,376
		負担金	0	3,823,660	670,420	4,494,080
		リース料	0	189,454	45,836	235,290
		支払報酬手数料	0	15,193,512	13,963,206	29,156,718
		福利費	0	2,060,313	1,279,231	3,339,544
		学外実習費	0	569,906	1,431,023	2,000,929
		雑費	0	31,793	0	31,793
		減価償却額	0	43,184,380	39,228,559	82,412,939

	管理経費		7,044,280	30,414,720	31,370,342	68,829,342
	消耗品費		0	884,526	745,317	1,629,843
	光熱水費		8,980	742,995	674,935	1,426,910
	旅費交通費		620,228	277,981	251,046	1,149,255
	車輛燃料費		0	57,069	51,842	108,911
	通信費		0	683,331	619,882	1,303,213
	印刷製本費		0	3,369,481	1,153,498	4,522,979
	修繕費		0	89,837	81,608	171,445
	損害保険料		53,000	126,509	114,921	294,430
	会議会合費		0	65,354	59,367	124,721
	公租公課		160,920	140,699	127,811	429,430
	負担金		0	873,767	1,462,528	2,336,295
	リース料		0	81,549	74,079	155,628
	支払報酬手数料		6,119,950	5,750,405	5,132,555	17,002,910
	渉外費		81,202	311,989	386,484	779,675
	福利費		0	109,055	119,065	228,120
	広告費		0	5,273,473	5,615,323	10,888,796
	補助活動事業		0	5,713,085	5,132,571	10,845,656
	70周年記念費用		0	0	4,549,631	4,549,631
	私立大学等経常費補助金返還金		0	562,000	65,000	627,000
	雑費		0	83,123	212,417	295,540
	減価償却額		0	5,218,492	4,740,462	9,958,954
	徴収不能額等		0	0	0	0
	教育活動支出計		9,123,144	230,634,242	264,698,624	504,456,010
	教育活動収支差額		△ 9,111,144	△ 133,717,307	△ 126,469,154	△ 269,297,605
教育活動外収支	事業収入の活動部	受取利息・配当金	0	0	0	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0
		教育活動外収入計	0	0	0	0
	事業支出の活動部	借入金等利息	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0
教育活動外収支差額		0	0	0	0	
経常収支差額		△ 9,111,144	△ 133,717,307	△ 126,469,154	△ 269,297,605	
特別収支	事業収入の活動部	資産売却差額	0	0	0	0
		その他の特別収入	0	21,143	19,207	40,350
		現物寄付	0	21,143	19,207	40,350
		特別収入計	0	21,143	19,207	40,350
	事業支出の活動部	資産処分差額	0	65,308	59,326	124,634
		設備処分差額	0	65,308	59,326	124,634
		その他の特別支出	0	0	0	0
		特別支出計	0	65,308	59,326	124,634
特別収支差額		0	△ 44,165	△ 40,119	△ 84,284	
基本金組入前当年度収支差額		△ 9,111,144	△ 133,761,472	△ 126,509,273	△ 269,381,889	
基本金組入額合計		△ 0	△ 18,756,696	△ 17,038,525	△ 35,795,221	
当年度収支差額		△ 9,111,144	△ 152,518,168	△ 143,547,798	△ 305,177,110	
(参考)						
事業活動収入計		12,000	96,938,078	138,248,677	235,198,755	
事業活動支出計		9,123,144	230,699,550	264,757,950	504,580,644	

貸 借 対 照 表

令和7年3月31日

(単位 円)

資産の部				
科	目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産		3,144,370,446	3,412,453,539	△ 268,083,093
有形固定資産		2,931,917,114	2,986,421,017	△ 54,503,903
土	地	365,679,574	365,679,574	0
建	物	2,003,311,562	2,088,969,718	△ 85,658,156
構	築 物	1,513,258	2,371,995	△ 858,737
教 育 研 究 用 機 器 備 品		91,210,233	59,792,103	31,418,130
管 理 用 機 器 備 品		21,429,284	22,232,089	△ 802,805
図	書	448,773,199	447,375,534	1,397,665
車	輛	4	4	0
特定資産		209,519,708	423,098,898	△ 213,579,190
退 職 給 与 引 当 特 定 資 産		114,550,822	128,130,012	△ 13,579,190
減 価 償 却 引 当 特 定 資 産		94,968,886	294,968,886	△ 200,000,000
その他の固定資産		2,933,624	2,933,624	0
電 話	加 入 権	2,924,514	2,924,514	0
預	託 金	9,110	9,110	0
流動資産		111,557,592	96,221,548	15,336,044
現	金 預 金	78,246,572	93,064,263	△ 14,817,691
未	収 入 金	31,918,900	1,716,750	30,202,150
販	売 用 品	1,324,930	1,387,535	△ 62,605
前	払 金	67,190	53,000	14,190
資産の部合計		3,255,928,038	3,508,675,087	△ 252,747,049
負債の部				
科	目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債		114,637,469	129,256,423	△ 14,618,954
長	期 未 払 金	86,647	1,126,411	△ 1,039,764
退 職 給 与 引 当 金		114,550,822	128,130,012	△ 13,579,190
流動負債		75,784,816	44,531,022	31,253,794
未	払 金	54,268,025	12,633,648	41,634,377
前	受 金	15,323,500	25,590,000	△ 10,266,500
預	り 金	6,193,291	6,307,374	△ 114,083
負債の部合計		190,422,285	173,787,445	16,634,840
純資産の部				
科	目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金		7,485,371,637	7,449,576,416	35,795,221
第1号基本金		7,449,371,637	7,413,576,416	35,795,221
第4号基本金		36,000,000	36,000,000	0
繰越収支差額		△ 4,419,865,884	△ 4,114,688,774	△ 305,177,110
翌年度繰越収支差額		△ 4,419,865,884	△ 4,114,688,774	△ 305,177,110
純資産の部合計		3,065,505,753	3,334,887,642	△ 269,381,889
負債及び純資産の部合計		3,255,928,038	3,508,675,087	△ 252,747,049

1. 重要な会計方針
 - (1) 引当金の計上基準
 - ① 徴収不能引当金
未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。
 - ② 退職給与引当金
退職金の支給に備えるため、期末要支給額を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入れ調整額を加減した金額の100%を計上している。
 - (2) その他の重要な会計方針
 - ① 有価証券の評価基準及び評価方法
移動平均法に基づく原価法である。
 - ② たな卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法に基づく原価法である。
 - ③ 預り金その他経過項目に係る収支の表示方法
預り金及び立替金に係る収入と支出は相殺して表示している。
 - ④ 食堂その他教育活動に付随する活動に係る収支の表示方法
補助活動に係る収支は純額で表示している。
2. 重要な会計方針の変更等 なし
3. 減価償却額の累計額の合計額 4,515,670,830 円
4. 徴収不能引当金の合計額 0 円
5. 担保に供されている資産の種類及び額 なし
6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額
1,140,821 円
7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。
8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項
純額で表示した補助活動に係る収支
純額で表示した補助活動に係る収支の相殺した科目及び金額は次のとおりである。

(単位 円)

支 出	金 額	収 入	金 額
管理経費支出	11,984,500	補助活動収入	1,201,449
計	11,984,500	計	1,201,449
純 額	10,783,051		

貸借対照表とは、決算日(3月31日)現在における学校法人の資産および負債・純資産(基本金・繰越収支差額)の内容や構成バランスを表しています。

令和6年度決算において、資産の部の有形固定資産は、土地、建物、構築物、備品等の合計29億3191万7114円が計上されています。特定資産は、退職給与引当特定資産と減価償却引当特定資産の合計2億951万9708円が計上されています。その他の固定資産は、電話加入権等の293万3624円が計上されています。流動資産には、現金預金等1億1155万7592円が計上されており、資産総額は32億5592万8038円となっております。

負債の部の固定負債は、退職給与引当金等の合計1億1463万7469円が計上されています。流動負債は、授業料等の前受金等の合計7578万4816円が計上されており、負債総額は1億9042万2285円となっております。

純資産の部の基本金は、第1号基本金(自己資金で取得した基本金設定の対象となる資産)74億4937万1637円と、第4号基本金(恒常的に保持すべき資金の額)3600万円の合計74億8537万1637円が計上されています。繰越収支差額は、事業活動支出超過額の累計額44億1986万5884円が計上されています。

固 定 資 産 明 細 表

令和 6年4月 1日から
令和 7年3月31日まで

(単位 円)

科 目		期 首 残 高	当 期 増 加 額	当 期 減 少 額	期 末 残 高	減価償却額の累計額	差 引 期 末 残 高	摘 要
有形 固定 資産	土 地	365,679,574	0	0	365,679,574		365,679,574	
	建 物	4,968,982,696	0	0	4,968,982,696	2,965,671,134	2,003,311,562	
	構 築 物	333,177,604	0	0	333,177,604	331,664,346	1,513,258	
	教育研究用機器備品	1,173,974,974	36,592,859	3,636,690	1,206,931,143	1,115,720,910	91,210,233	注1
	管 理 用 機 器 備 品	106,505,677	0	0	106,505,677	85,076,393	21,429,284	
	図 書	447,375,534	1,399,765	2,100	448,773,199	0	448,773,199	注2
	車 輜	14,027,310	0	0	14,027,310	14,027,306	4	
	計	7,409,723,369	37,992,624	3,638,790	7,444,077,203	4,512,160,089	2,931,917,114	
特定 資産	退職給与引当特定資産	128,130,012	0	13,579,190	114,550,822	0	114,550,822	
	減価償却引当特定資産	294,968,886	0	200,000,000	94,968,886	0	94,968,886	注3
	計	423,098,898	0	213,579,190	209,519,708	0	209,519,708	
そ 固 定 他 資 産	電 話 加 入 権	2,924,514	0	0	2,924,514	0	2,924,514	
	施 設 利 用 権	3,510,741	0	0	3,510,741	3,510,741	0	
	預 託 金	9,110	0	0	9,110	0	9,110	
	計	6,444,365	0	0	6,444,365	3,510,741	2,933,624	
合 計		7,839,266,632	37,992,624	217,217,980	7,660,041,276	4,515,670,830	3,144,370,446	

注1	当期増加	情報処理教育センター機器備品他	36,592,859 円
注2	当期増加	購入図書 寄贈図書	1,359,415 円 40,350 円
注3	当期減少	特定資産から現金預金に振替	200,000,000 円

借 入 金 明 細 表

令和 6年4月 1日から
令和 7年3月31日まで

(単位 円)

借入先			期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	利率	返済期限	摘要
長期借入金	公的金融機関					0			
		小計	0	0	0	0			
	市中金融機関								
		小計	0	0	0	0			
	その他								
		小計	0	0	0	0			
計		0	0	0	0				
短期借入金	公的金融機関								
		小計	0	0	0	0			
	市中金融機関								
		小計	0	0	0	0			
	その他								
		小計	0	0	0	0			
	返済期限が1年以内の長期借入金		0	0	0	0			
計		0	0	0	0				
合 計		0	0	0	0				

基 本 金 明 細 表

令和 6年4月 1日から
令和 7年3月31日まで

(単位 円)

事 項	要 組 入 高	組 入 高	未 組 入 高	摘 要
第1号基本金				
前期繰越高	7,416,158,624	7,413,576,416	2,582,208	
当期組入高				
1. 建物				
過年度未組入れに係る当期組入れ				
建物に係る未払金支払に伴う組入れ		1,039,764	△ 1,039,764	
小 計	0	1,039,764	△ 1,039,764	
2. 教育研究用機器備品				
機器備品の購入に係る組入れ	36,592,859	32,956,169		
除却した機器備品に係る基本金額	△ 3,636,690			
過年度未組入れに係る当期組入れ				
機器備品に係る未払金支払に伴う組入れ		298,620	△ 298,620	
小 計	32,956,169	33,254,789	△ 298,620	
3. 管理用機器備品				
過年度未組入れに係る当期組入れ				
機器備品に係る未払金支払に伴う組入れ		97,800	△ 97,800	
小 計	0	97,800	△ 97,800	
4. 図書				
図書の購入に係る組入れ	1,359,415	1,383,255	14,410	
図書の現物寄付に係る組入れ	40,350			
除却した図書に係る基本金額	△ 2,100			
過年度未組入れに係る当期組入れ				
図書に係る未払金支払に伴う組入れ		19,613	△ 19,613	
小 計	1,397,665	1,402,868	△ 5,203	
計	34,353,834	35,795,221	△ 1,441,387	
当期末残高	7,450,512,458	7,449,371,637	1,140,821	
第4号基本金				
前期繰越高	36,000,000	36,000,000	0	
当期末残高	36,000,000	36,000,000	0	
合計				
前期繰越高	—	7,449,576,416	2,582,208	
当期組入高	—	35,795,221		
当期末残高	—	7,485,371,637	1,140,821	

令和 6 年度事業報告書

1 法人の概要

(1) 基本情報

①学校法人原田学園

②岡山県倉敷市有城 787 番地 086-428-2651 086-429-0323 <https://owc.ac.jp>

(2) 建学の精神

建学の精神は、本学の創立者である原田林市初代理事長・学長が大正 13 年に岡山県浅口郡鴨方町六条院に設立した「岡山県生石高等女学校」の建学の精神、教育三綱領「自律創生、信念貫徹、共存共栄」を継承し、本学公式ウェブサイトにおいて次のように示し、学内外に表明している。

教育三綱領（1924 年制定）

創立者がその私学で養成する人物像を示したものが「建学の精神」です。

岡山学院大学・岡山短期大学の建学の精神は、「教育三綱領」です。

教育三綱領を基に、岡山学院大学では管理栄養士、そして岡山短期大学では保育者を育成します。

「自律創生」

道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

「信念貫徹」

目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

「共存共栄」

社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

この教育三綱領の意味は「人間は信念をもって生きるものであり、信念のない人間は舵のない船のようなものである。信念とは人間の生きる道であり、道は道路と同じで、必ず踏み行わなければならない。道を行かなければがををし、あやまちをする。信念をもって如何なることがあろうとも道をはさず生きるとの信念を徹底しなければならない。そして、この道は人間により拓かれ、道徳的理想に向かって人間の本務を体得するもので、価値としての自我の創造につとめるとともに校風の発展に努力し、更にはその道によって世界の人間と交流し、日本国民としての自覚をもって世界の平和に貢献せよ。」ということです。

(3) 法人の沿革

昭和 25 年 12 月 学校法人原田学園設置認可(岡山県山陽中学校・岡山県山陽高等学校)

昭和 26 年 2 月 岡山県浅口郡鴨方町に岡山女子短期大学(家政科 入学定員 80 名)を開設

昭和 28 年 4 月 岡山県山陽中学校休校

昭和 31 年 4 月 岡山女子短期大学附設幼稚園教員養成所(入学定員 20 名)を附設

昭和 33 年 4 月 保育科(定員 40 名)を増設

昭和 34 年 3 月 附設幼稚園教員養成所を廃止

昭和 38 年 4 月 栄養科(定員 40 名)を増設

昭和 39 年 4 月 保育科定員増(定員 50 名)、栄養科定員増(定員 60 名)

昭和 40 年 4 月 栄養科定員増(定員 80 名)

昭和 43 年 4 月 保育科定員増(定員 100 名)、栄養科を食物栄養科とし、定員増(定員 100 名)

昭和 45 年 4 月 家政科を家政学科、食物栄養科を食物栄養学科、保育科を幼児教育学科と改める

昭和 45 年 11 月 倉敷市有城に校地を取得

昭和 47 年 10 月 家政学科、食物栄養学科を倉敷に移転

昭和 49 年 4 月 学校法人原田学園経営の岡山県山陽高等学校を寄附行為変更により、新設の学校法人第一原田学園に移管

昭和 51 年 4 月 幼児教育学科定員増(定員 150 名)

昭和 53 年 4 月 幼児教育学科を倉敷に移転

昭和 59 年 12 月 カタ BC 州立マラスピナレッジ(現カタ BC 州立バンクーバー・アイランド・ユニバーシティ)と姉妹校提携する

昭和 60 年 12 月 英語科(定員 100 名)設置認可

昭和 61 年 4 月 岡山県山陽中学校廃止、家政学科定員減(定員 50 名)

昭和 61 年 4 月 英語科(定員 100)を増設

平成 元年 4 月 家政学科の名称を生活情報学科に変更

平成 3 年 4 月 食物栄養学科期間付定員増(定員 150 名)、英語科期間付定員増(定員 150 名)

平成 9 年 4 月 専攻科食物栄養学専攻が学位授与機構の認定を受ける

平成 10 年 4 月 専攻科食物栄養学専攻が 3 年制栄養士養成施設の指定を受ける

平成 11 年 6 月 平成 12 年 4 月 1 日より「岡山短期大学」に名称変更認可

平成 12 年 4 月 校名を「岡山短期大学」に変更し男女共学とする
食物栄養学科及び英語科の期間付入学定員を期間終了により解消

平成 13 年 12 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科(定員 100)
及び生活情報コミュニケーション学科(定員 100)設置認可

平成 14 年 1 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科(定員 100)が管理栄養士養成施設の指定認可を受ける

平成 14 年 4 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科(定員 100)
及び生活情報コミュニケーション学科(定員 100)新設

平成 14 年 4 月 岡山短期大学生生活情報学科(定員 50)、
食物栄養学科(定員 100)及び英語科(定員 100)の学生募集を停止する

平成 15 年 3 月 岡山短期大学生生活情報学科(定員 50)、英語科(定員 100)を廃止する

平成 16 年 3 月 岡山短期大学食物栄養学科(定員 100)を廃止する

平成 16 年 4 月 岡山学院大学人間生活学部生活情報コミュニケーション学科の名称を人間情報学科に変更

平成 18 年 3 月 岡山短期大学が財団法人短期大学基準協会の第三者評価により適格認定を受ける

平成 19 年 4 月 岡山学院大学人間生活学部人間情報学科(定員 100)の学生募集を停止する

平成 19 年 4 月 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科(定員 40)開設

平成 22 年 3 月 岡山学院大学人間生活学部人間情報学科(定員 100)を廃止する

平成 22 年 4 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科入学定員を 100 名から 40 名に変更

平成 22 年 4 月 岡山短期大学幼児教育学科入学定員を 150 名から 100 名に変更

平成 22 年 4 月 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科(定員 40)の学生募集を停止する

平成 23 年 3 月 岡山学院大学が財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価の認定を受ける

平成 25 年 3 月 岡山短期大学が一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価により第 2 評価期間の適格認定を受ける

平成 25 年 3 月 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科を廃止する

平成 30 年 3 月 岡山学院大学が公益財団法人日本高等教育評価機構の平成 29 年度大学機関別認証評価による第 2 評価期間の認定を受ける

平成 31 年 1 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科の教職課程(栄養教諭一種免許状)が再課程認定を受ける
岡山短期大学幼児教育学科の教職課程(幼稚園教諭二種免許状)が再課程認定を受ける

令和 2 年 3 月 岡山短期大学が一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価により第 3 評価期間の適格認定を受ける

令和 2 年 4 月 原田学園寄附行為の変更が令和 2 年 2 月 12 日付元文科高第 940 号にて認可され令和 2 年 4 月 1 日付で施行した。

令和 4 年 12 月 岡山短期大学幼児教育学科入学定員を 100 名から 70 名に変更

令和 5 年 12 月 岡山短期大学幼児教育学科入学定員を 70 名から 40 名に変更

(4) 設置する学校・学部・学科等

岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科

岡山短期大学 幼児教育学科

・学年・学期・休業日

学年

4月1日～翌年3月31日

学期

前期 4月1日～9月10日

後期 9月11日～翌年3月31日

休業日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

日曜日

春期休業 3月21日～3月31日

夏期休業 8月1日～9月10日

冬期休業 12月22日～翌年1月7日

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況 (令和6年5月1日現在)

学 校 名	学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現員	充足率	備 考
岡山学院大学	人間生活学部 食物栄養学科	年度 H14	人 40	人 15	人 160	人 76		編入学者数4
岡山短期大学	幼児教育学科	年度 S33	人 40	人 33	人 80	人 69		

(6) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
岡山学院大学	0.61	0.66	0.64	0.51	0.47
岡山短期大学	0.40	0.48	0.48	0.59	0.86

(7) 役員の概要

・役員・教職員の概要 (令和6年7月1日現在)

理事総数6名 (定数5～7名) 学内4名、学外2名

氏名	就任年月日	重任年月日	常勤・非常勤	業務執行・ 非業務執行	主な現職
原田博史	S61.4.1	R4.4.1	常勤	業務執行	理事長・学長
尾崎 聡	H27.3.25	R4.4.1	常勤	業務執行	岡山短期大学主任教授
作永大樹	R5.3.29		常勤	業務執行	事務部長代理・経理課長
原田俊孝	R4.4.1		常勤	業務執行	副理事長・副学長
林 伸雄	H31.1.9	R4.4.1	非常勤	非業務執行	医師
高橋利英	R5.5.31		非常勤	非業務執行	税理士

・責任免除・責任限定契約・保証契約・役員賠償責任保険契約の状況 (令和6年5月1日現在)

いずれもなし

監事総数2名 (定数2名) 学外2名

氏名	就任年月日	重任年月日	常勤・非常勤
小野 聡	H26.7.30	R4.4.1	非常勤
三宅俊弘	H28.7.6	R4.4.1	非常勤

(8) 評議員の概要 (令和6年7月1日現在)
 評議員総数 15 名 (定数 15 名～20 名)

氏名	就任年月日	重任年月日
高槻悦子	R5. 4. 1	
尾崎 聡	H22. 4. 1	R4. 4. 1
川口貴子	R5. 4. 1	
作永大樹	R4. 4. 1	
原田俊孝	H25. 3. 27	R4. 4. 1
中塚志津子	S49. 4. 1	R4. 4. 1
森上敏子	H22. 4. 1	R4. 4. 1
林 伸雄	H31. 1. 9	R4. 4. 1
原田博史	S61. 4. 1	R4. 4. 1
藤原雅美	R5. 5. 31	R4. 4. 1
川野晃子	R1. 5. 29	
竹原昭恵	R6. 5. 29	R4. 4. 1
原田了子	R5. 5. 31	R4. 4. 1
岡本 定	H21. 3. 26	R4. 4. 1
高橋利英	H28. 7. 6	R4. 4. 1

(9) 教職員の概要 (令和6年5月1日現在)
 専任教職員数 (人)

	法人	岡山学院大学	岡山短期大学	合計
専任教育職員		17	11	28
専任事務職員		6	7	13

兼担及び非常勤教員数 (人)

	岡山学院大学	岡山短期大学
兼任教員	6	3
非常勤教員	9	10

2 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

岡山学院大学

岡山学院大学の建学の精神「教育三綱領」は、

自律創生：道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

信念貫徹：目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

共存共栄：社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

であり、教育理念は、21世紀の我が国の少子高齢化の時代において、15歳から65歳までの生産年齢人口の縮小を抑止するために、国民一人一人の健康維持及び増進をはかり、我が国の労働生産力の向上に寄与する Society 5.0 時代の人材を本学の「人間教育」と免許・資格を取得する「技術・技能教育」をもって育成することである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、管理栄養士養成の教育目標を達成することを使命とする。

人間生活学部食物栄養学科の教育目標

人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得し、健康寿命延伸・QOL 向上のための栄養の指導を行う専門家を育成する。

4年間じっくり学ぶことで、栄養士免許を取得するとともに、管理栄養士の国家試験受験資格を得る。管理栄養士とは、「人」の健康の維持増進をはかるための栄養の指導に携わる専門家である。高齢化が進むこれからの社会にあってはチーム医療のスタッフとして大いに期待され、また、食品技術系の企業においても、管理栄養士に人材ニーズが高まっている。食物栄養学科では将来、こうした栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士を育てるために次の教育目標を掲げている。

- ① 生活習慣病の予防と改善に貢献する管理栄養士の養成
- ② 疾病の予防や治療において栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能による栄養指導及び栄養管理等に携わることのできる管理栄養士の養成
- ③ 豊かな人間性に富み、カウンセリングや福祉・介護分野の知識を修得した管理栄養士の養成
- ④ 人材ニーズが高まっている食品技術系の企業で活躍する管理栄養士の育成
- ⑤ 学校における食に関する指導の目標、食に関する指導の全体計画、各教科等や給食における食に関する指導方法を修得し、管理栄養士として学んだことを学校教育の現場で生かすことができる栄養教諭の育成

※ Society 5.0 とは（内閣府 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/）

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）である。

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画（平成28～令和2年度）において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。Society 5.0 で実現する社会は IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する。

また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。

社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となる。

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基、自律した信念のある社会人となることである。

Society 5.0 時代の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士になるために、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。

I. 専門的学習成果

学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士になるため、学科の教育課程の学習をとおして、専門知識と専門的能力を獲得する。

- ①多様な専門領域に関する基本となる専門的知識を獲得する。
- ②チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を獲得する。
- ③公衆衛生を理解し、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行う能力を獲得する。
- ④健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を獲得する。
- ⑤子どもが将来にわたって健康に生活していけるよう、食に関する指導（学校における食育）をする能力を獲得する。

Ⅱ．汎用的学習成果

基礎教育科目の学習をととして、

- ①基礎的な知識から新しい知識・健康関連データを創造する力や新食品開発企画力や研究開発力など栄養学分野の基本的な能力と知識を現代の諸問題と関連づけて展開できるクリエイティブ力を獲得する。
- ②数量的スキルや ICT リテラシーで Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用し、円滑なチームワーク、リーダーシップ、対人コミュニケーションで、Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用し、個人のヘルスプランを創案し、健康改善につなげるマネジメント力を獲得する。
- ③心身のサポートや精神的にケアする力、健康づくりをサポートするために信頼される社会人としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理能力などのホスピタリティ力を獲得する。

卒業認定・学位授与の方針

学位：学士（栄養学）

Society 5.0 時代の現場に即応できる管理栄養士になるため、基礎教育科目および管理栄養士課程の専門教育科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業を認める卒業生の学習成果は次のとおりである。

1. 学位授与に必要な単位を修得している。
2. 卒業後社会人として求められるコミュニケーション能力、態度（心構え）や職業に対する知識、理解、価値、意見を獲得している。

尚、単位認定は科目の成績評価を基礎として単位認定の教授会において、学習成果を基準に判定する。

教育課程編成・実施の方針

管理栄養士課程として、栄養士の免許および管理栄養士の国家試験受験資格を得るための専門教育科目を編成し、実施する。

また、同時に「食品衛生資格履修コース」を専門教育科目の中に科目指定し、実施する。

栄養教諭一種免許状を得るための教職課程を編成し、実施する。

Society 5.0 時代に求める 3 つの力を汎用的学習成果として獲得させる基礎教育科目にクリエイティブ力基礎科目群、マネジメント力基礎科目群及びホスピタリティ力基礎科目群を編成し、実施する。希望者に対して、フードスペシャリスト資格認定証、専門フードスペシャリスト資格認定証、図書館司書などが取得できるサブカリキュラムも編成し、実施する。

入学者受入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- ・栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士の仕事を理解している。
- ・卒業後、管理栄養士として働く意思が強い。
- ・Society 5.0 時代に必要なスキルの修得意識が強い。
- ・本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- ・生物、化学を基礎とする学習に努力できる。

岡山短期大学

岡山短期大学の建学の精神「教育三綱領」は、

自律創生：道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

信念貫徹：目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

共存共栄：社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

であり、教育理念は、岡山短期大学の教育理念は、学生一人ひとりが強い信念をもち、それぞれが志した学習目標を達成し、本学で修得した知識、技能および免許・資格を活かした進路を確実に得、本学お

よび社会の発展に寄与する人材を育てることである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、保育者養成の教育目標を達成することを使命とする。

幼児教育学科の教育目標

幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1歳以上3歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、幼児期への学びの連続性を考えることができる保育者を養成する。

本学科の保育者養成の教育目標

- ① Society 5.0時代のAIに代表される技術革新の進歩やIoTの広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の20年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成する。
- ② 幼児教育において育みたい「資質・能力」の三つの柱「知識及び技能の基礎」・「思考力、判断力、表現力等の基礎」・「学びに向かう力、人間性等」を育成することのできる保育者を養成する。
- ③ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を育むことに向けて指導ができる保育者を養成する。
- ④ すべての子どもが安心して過ごせるよう、子どもの気持ちに寄り添い、子どもの生活状況や実態に合わせて気持ちが前向きになるよう満たすような働きかける養護と幼児教育を一体的に展開するために、保育の実際を評価し保育を改善し続けることができる保育者を養成する。

更に、卒業後の目標として、次の、公務員となる公務員養成コース、及びSociety 5.0時代の保育者となるSociety 5.0保育者養成コースを設ける。

公務員養成コース

基礎教育科目の「公務員講座（A）」「公務員講座（B）」で公務員試験出題科目を集中的に学習すると共に、「卒業予備研究（B）」「卒業研究（A）」を通して集中的に公務員試験受験のための社会人基礎力を獲得し公務員試験に合格する。

Society 5.0 保育者養成コース

基礎教育科目の「ソサエティ 5.0 理解」「情報処理基礎」「情報処理演習」「ICTリテラシー（A）」及び「ICTリテラシー（B）」の学習を通してSociety 5.0時代の保育者に必要なICT技術を修得すると共に、「卒業予備研究（B）」「卒業研究（A）」「卒業研究（B）」で「模擬保育室」「保育相談実践室」のSociety 5.0化を研究しSociety 5.0時代の保育者になる。

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基に、自律した信念のある社会人となることである。

学科の専門学習では、Society 5.0時代の現場に即応する保育者（幼稚園教諭・保育士）になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習をとおり、次の学習成果を獲得する。

I. 専門的学習成果

幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1歳以上3歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、幼児期への学びの連続性を考えることができる能力を獲得する。

II. 汎用的学習成果

社会人として求められる態度、信念、意見、価値、コミュニケーション能力を獲得する。

社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や価値観、自己管理の能力を、また職業生活や社会生活で必要な情報リテラシーや数量的スキル、人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を獲得する。

卒業認定・学位授与の方針

学位：短期大学士（幼児教育学）

Society 5.0 時代の現場に即応する保育者になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習を通して科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業認定の際に獲得していることを求める学習成果は次のとおりである。
Society 5.0 時代の現場に即応できる保育者に求められる専門的学習成果と社会人・職業人として求められる汎用的学習成果を獲得している。

教育課程編成・実施の方針

卒業要件として学生が修得すべき単位数について、学生が 1 学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を 30 単位とするため、基礎教育科目及び専門教育科目と合わせた単位の上限を 30 単位とし、可能な限り 25 単位に近づけるように科目を開講する。

専門教育科目の編成と実施

幼稚園教諭二種免許状取得に必要な科目と、保育士資格取得に必要なカリキュラムを編成する。
授業の実施は、専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果をも獲得できるように実施する。

基礎教育科目の編成と実施

免許法施行規則の第 6 6 条の 6 に定める科目と共に、卒業後、公務員となる公務員養成コース及び Society 5.0 時代の保育者となる Society 5.0 保育者養成コースに必要な授業科目を編成する。
意欲ある学生に対して図書館司書を取得できる科目を編成し、実施する。

入学者受入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- ・自分のなりたい保育者像が明確である。
- ・子どもが好きで、心身ともに健康で、何事にも積極的である。
- ・幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取得し、卒業後保育者として働く意志が強い。
- ・Society 5.0 時代に必要なスキルの修得意識が強い。
- ・本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- ・体育や図画工作、音楽が好きで、特にピアノについては、基礎技能を身に付けようと努力できる。

(2) 中期的な計画(教学・人事・施設・財務等)及び事業計画の進捗・達成状況
 中期計画は「学校法人原田学園経営改善計画(令和6年度～10年度)」として策定しており、その概要を以下に示す。

1. 法人経営(特に教学、学生募集、財務状況)における現状認識、問題点とその原因及び今後の課題に関する分析

1-1 法人経営における現状認識

【法人】

○教学における現状認識

自己点検・評価の観点から、理事長・学長のリーダーシップ、意思決定するまでのアプローチについては問題ないものとする。学生の学習成果を焦点とした岡山学院大学・岡山短期大学の自己点検・評価(大学・短期大学基準協会の評価基準)から、基準Ⅰ、基準Ⅱ及び基準Ⅳについて点検した結果、ミッションと教育の効果、教育課程と学生支援、リーダーシップとガバナンスについて問題なかった。

しかし、教学における現状認識から下記の学生募集及び財務状況に接続できなかったことにおいて、理事長・学長のリーダーシップ、意思決定するまでのアプローチの実行性において問題があるものとする。

○学生募集における現状認識

法人全体の学生募集における現状は、大学・短大共にかなり厳しいものであるとする。

18歳人口の激減に対応する学生募集を行うために、前々回の経営改善計画から「魅力ある大学づくり」を実施してきた。岡山学院大学では本学独自のエンロールメントサポートである「スマート OKAGAKU アクション」の実施や国試対策ゼミ及び健康寿命延伸教室の質的向上を図った。また、岡山短期大学では学生満足度の向上を図り「おかたんみらい園」の開設等、学生が活躍する地域に根付いた魅力づくりを行った。

しかし、下記の通り 18歳人口の激減に対応した学生募集が出来なかった。

岡山学院大学						
募集状況		A0	特推	一推	一般	合計
R1	志願者数	9	20	4	15	48
	入学者数	9	20	3	5	37
R2	志願者数	5	12	1	9	27
	入学者数	4	12	1	1	18
		総合型	学校推薦		一般	合計
R3	志願者数	7	12		10	29
	入学者数	7	12		3	22
R4	志願者数	8	18		3	29
	入学者数	8	15		1	24
R5	志願者数	3	9		2	14
	入学者数	3	8		0	11

岡山短期大学						
募集状況		A0	特推	一推	一般	合計
R1	志願者数	18	23	2	6	49
	入学者数	17	23	2	2	44
R2	志願者数	18	19	3	2	42
	入学者数	17	19	2	1	39
		総合型	学校推薦		一般	合計
R3	志願者数	15	38		6	59
	入学者数	15	35		4	54
R4	志願者数	21	28		5	54
	入学者数	21	27		0	48
R5	志願者数	20	18		3	41
	入学者数	20	18		0	38

○財務状況における現状分析

令和 5 年度岡山学院大学・岡山短期大学の自己点検・評価報告書における基準Ⅲ-D における財務状況から、かなり厳しいものであると考える。本学では、入学者の減少に伴い、定年及び自己都合の退職教職員の無補充策による人員削減、入学者数の収容定員比率を支給率に乗じた賞与の定率カット、派遣職員の活用などの策を講じて人件費を抑制しているが、一概に経常収入の増加が見込める状況ではないので、更に、人員の合理化及び抑制する賃金体系化により、令和 2 年度までに、人件費依存率を 80%以下にすることを目指したが達成できなかった。

事業活動収支計算書 関係比率	28 年度 決算	29 年度 決算	30 年度 決算	元年度 決算	2 年度 決算	3 年度 決算	4 年度 決算	5 年度 決算
人件費比率	60.6%	75.9%	82.8%	87.3%	98.8%	84.2%	79.2%	93.2%
人件費依存率	110.1%	107.2%	120.1%	132.7%	142.5%	119.8%	122.1%	140.1%

令和 5 年度決算において、人件費比率 93.2%、人件費依存率 140.1%と高く、人事政策は、効果的に削減できていないのが現状である。

【岡山学院大学】

○教学における現状認識

人間生活学部食物栄養学科の教育目標は、Society5.0 社会の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士を養成することである。

Society5.0 社会の現場に即応する管理栄養士になるためには、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの知識は不可欠であり、令和 3 年度から同プログラムのリテラシーレベルの教育を実施している。令和 5 年度には同プログラムリテラシーレベルの認定制度を申請し認定を受けた。本件は、他大学にない強みとなっている。

また、取得できる資格は管理栄養士国家試験受験資格の他に、栄養士免許、食品衛生管理者任用資格、食品衛生監視員任用資格、フードスペシャリスト、専門フードスペシャリスト、栄養教諭一種免、図書館司書、社会福祉主事任用資格と在学中に 9 つの資格を獲得できるため、卒業後は食の専門家として様々な方面で活躍している。資格を取得するために、本学独自のエンロールメントサポート「スマート OKAGAKU アクション」を実施し、入学前から卒業後まで徹底フォローをする体制を整えている。

受験生に対し、上記の教育目標、学生の学習成果、3 つの方針を十分に示しているところであるが、入学後にミスマッチが生じるなど、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの履修率は令和 5 年度申請時において 29%と履修率 100%を目指す学部学科にとって程遠い結果である。現在の名称及び教育目標のままならば、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの科目の履修率の向上を図ることが困難である。

【岡山短期大学】

○教学における現状認識

幼児教育学科の教育目標は、幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1 歳以上 3 歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、幼児期への学びの連続性を考えることができる保育者を養成することである。

具体的には、①Society5.0 時代の AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成する。②幼児教育において育みたい「資質・能力」の三つの柱「知識及び技能の基礎」・「思考力、判断力、表現力等の基礎」・「学びに向かう力、人間性等」を育成することのできる保育者を養成する。③幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を育むことに向けて指導ができる保育者を養成する。④すべての子どもが安心して過ごせるよう、子どもの気持ちに寄り添い、子どもの生活状況や実態に合わせて気持ちが前向きになるよう満たすような働きかける養護と幼児教育を一体的に展開するために、保育の実態を評価し保育を改善し続けることができる保育者を養成する。

上記の教育目標を達成するために、Society5.0 保育者養成コース及び公務員養成コースを設立して

学生の学習成果の獲得に貢献しているところであるが、岡山短期大学 FD 委員会で Society5.0 保育者養成コースについて点検・評価しているとおおり、十分に機能していない。また、公務員養成コースを設立から現在まで公務員で活躍している保育者は出ていない。

1-2 問題点とその原因及び今後の課題に関する分析

【法人】

○18 歳人口の激減に対応した学生募集

18 歳人口の激減に対応した学生募集が出来なかった要因は、社会のニーズ、地域のニーズ、学生のニーズの対応が出来ていなかったことである。

例えば、人手不足と言われている現代社会において、管理栄養士の専門職は過剰となっており人手が余っている状況である。この状況は社会のニーズに対応が出来ていないとつながっている。しかし、管理栄養士は、食環境戦略イニシアチブの中心的立場であるため、今後の日本を支える職業であることは変わらない。「管理栄養士×フードマネジメント×食環境イニシアチブ」の 3 つの視点から次世代の管理栄養士を取り入れ 18 歳人口の学生募集を行う。また、デジタル人材の不足に対応できるよう留学生の募集を行う。

また、保育者養成は、我が国が掲げている少子化対策に直結する。地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会において、①人口減少地域等における保育所の在り方、②多様なニーズを抱えた保護者・子どもへの支援、③保育所・保育士による地域の子育て支援、④保育士の確保・資質向上等を具体的な取組内容として掲げており、社会のニーズはあると考える。また、倉敷市は倉敷市長が「子育てをするなら倉敷で」を掲げており、保育士・保育所支援センターの創設から保育者養成の地域のニーズはあると考える。しかし、学生などのステークホルダーから「保育者＝多忙で給与が低い」及び「保育者＝メディアのネガティブのニュースが多い」という負のイメージを払拭することは出来ず、高大接続連携校の高校教員からも「保護者から負のイメージが先行し諦めさせる声がある」等、学生のニーズに対応が出来ていないことが分かった。そこで、社会のニーズ、地域のニーズに対するポジティブ広報とそれを応援することができる 18 歳人口の学生募集を行う。また、保育現場の多様化に対応した留学生の募集を行う。

○人事政策

人件費依存率 80%を達成するために、学生数の増加と教職員の人事考課のメリハリ化が重要であると考える。教職員の人事考課のメリハリ化は、業務の貢献度に左右されるため、自然と学生募集につながる仕組みとなっている。

本学の基本給は、平成 20 年の 5 か年計画の俸給表を使用しており、年度を追う毎に経験年数として必ず 1 俸給上がる仕組みをとっていた。そのため、メリハリが欠けており、若手が活躍できる人事考課につながっていないと考える。そこで、令和 8 年度を目標に昇給規定の改善を図りたい。例えば、俸給表の上昇を経験年数の俸給上げ幅を 0.7 として、それをベースに学科業務及び学生募集における貢献度-0.2 から+0.5 の貢献度の増減を次年度の基本給にするなど検討する。

また、中堅後半及び高齢教員から学科業務を免除してほしいという要請が増えてきた。55 歳から 65 歳定年までの教員は、マンネリ業務を好むことが多くなっているため昇給停止となっているが、学科業務の減少など仕事量と質の乖離が生じている。そこで、令和 8 年度を目標に人事考課法を策定し実施したい。例えば、現在の俸給をベースに学科業務及び学生募集における貢献度から-0.5 から+0.2 の貢献度の増減を次年度の基本給の号俸にするなどを検討する。

さらに、理事長・学長が認める教育運営上必要教員を除いた定年で再雇用した特別専任教員は、次の教員が見つかるまでのカバーの要素が強い。また、再雇用であるため、安く教授を雇うことができる。授業担当教員から探すよう要請があるまで探さないようにしていた。定年で再雇用した特別専任教員は余生を意識している教員が多く、それが他の教員と温度差が生じやすい状態になって学生募集にも影響でている。特別専任教員として本学の学校運営に尽力している教員もいるので、特別専任教員の評価を実施しなければならない。そこで、令和 8 年度を目標に特別専任教員の人事考課法の確立と働き方改革を実施したい。例えば、専任教員と同様の全日勤務をしている大学の特別専任教員の場合の基本給は 300,000 円としているが、学科業務及び学生募集の貢献度から±25,000 円の範囲内で基本給の増減を実施することなど検討する。その際は本学の最低賃金より低くならないように気を付ける。

【岡山学院大学】

○他大学との差別化

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」及び「スマート OKAGAKU アクション」が他大学にない強みとなっているが、強みを十分に活かした広報が出来ていない。要因として考えられるのは、「Society5.0 社会の現場に即応する管理栄養士」の学生の学習成果が不明瞭であることが大きな要因であるとする。令和 2 年度に岡山学院大学の FD 会議で学生の学習成果及び 3 つの方針の点検を図り、令和 3 年度から数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに対応した学生の学習成果及び 3 つの方針にしたが、基礎教育科目の各科目が Society5.0 社会の現場に即応する人材養成に対応しているカリキュラム編成になっていなかった。学生の学習成果及び 3 つの方針を再度点検し「Society5.0 時代の現場に即応する管理栄養士」を「数理・データサイエンス・AI 教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士」にして明瞭にした。また、基礎教育科目（クリエイティブ力基礎科目群、マネジメント力基礎科目群、ホスピタリティ力基礎科目群）の編成を見直し、デジタル生活人材養成科目（ヒューマン・サービス科目、フードマネジメント科目、コミュニケーション科目）と編成し Society5.0 人材の柱である数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの修得を基にした形にした。

○数理・データサイエンス・AI 教育

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」におけるリテラシーレベルの履修率は 29%とかなり低い。履修率が低くなる要因は、入学後のミスマッチによる要因が大きいと考える。オープンキャンパス等で学生の学習成果及び 3 つの方針について十分に広報しているが、「栄養学、調理学を学ぶと思っていたが、入学後に苦手である数学やデータサイエンスをここまで学ぶとは思わなかった」という令和 4 年度入学生より口頭での意見があった。

今後も数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに注力し、応用基礎レベルの修得を目指す計画であるが、上記のとおりミスマッチが生じているため解消する必要がある。令和 7 年度から学部学科名を「デジタル生活学部フードマネジメント学科」に変更し上記のミスマッチが生じないようにする。また、リテラシーレベルから応用基礎レベルまで引き上げ、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムについて、岡山学院大学 FD 委員会で随時点検する体制を整備する。FD・SD ワークショップで報告する機会を設けており、PDCA サイクルで質的向上を図る。

【岡山短期大学】

○Society5.0 保育者養成コース

Society5.0 保育者養成コースの課題は、各年度 FD・SD ワークショップから

R2 年度「各プレゼミで今年度初めての内容であるため、教員間の Society5.0 の共通理解が上手く図ることができていなかったことが課題である。また、卒業予備研究（B）のコマ数は 15 回であるが、Society5.0 理解の時間、学内保育所実習、子どもといっしょに発表会リハーサル及び本番なども卒業予備研究（B）に当てているので、実際の研究時間は 8 回分であるため、研究時間は少ないことも課題として挙げられる。教員間の Society5.0 の共通理解と卒業予備研究の内容の見直しが重要であると考えられる。」

R3 年度「現在の形式となって、卒業研究及び卒業予備研究を実施してきたが、Society5.0 時代と保育を積極的に研究しているゼミと Society5.0 時代と保育の研究が難しいゼミが明確となった。紀要第 44 号において、「Society 5.0 保育者養成コースの学生は、システム化された市販のアプリは多数あるが、それを活用するだけでなく、保育現場で何を ICT 化すると保育の質が向上・充実するのかを学修しなければならない。」とされている。各ゼミで何を ICT 化すると保育の質の向上・充実するのかを学ぶ体制を早急に整える必要がある。」

R4 年度「令和 3 年度 FD・SD ワークショップより「現在の形式となって、卒業研究及び卒業予備研究を実施してきたが、Society5.0 時代と保育を積極的に研究しているゼミと Society5.0 時代と保育の研究が難しいゼミが明確となった。各ゼミで何を ICT 化すると保育の質の向上・充実するのかを学ぶ体制を早急に整える必要がある。」と課題発見し報告したが、昨年度と同様の課題のまま解決することできていない。

また、解決方策として、「各ゼミで何を ICT 化すると保育の質の向上・充実するのかを学ぶ体制を整える一解決方策として、ゼミ間のコラボレーションをすることも視野に入れることが有効的であると考えられる。今後の方向の中で、ゼミを越えることにより、新たな価値を創造することも検討していきたい。」

と報告したが実施できていない。昨年度は吹奏楽ゼミと情報ゼミ教員とのコラボレーションで成果を獲得したことを述べたが、今年度はいずれのコラボレーションも出来ていないのが現状である。解決できていない要因として、Society5.0 保育者養成コースの担当教員の Society5.0 化を図りたいという意識が低いことが一つ挙げられる。例えば、12 月 3 日に実施したすたんぷステーション説明会（教員向け）のアーカイブ視聴の視聴回数は「1（12 月 16 日現在）」であり、情報機器を活用しようという意識が希薄であり、教員の Society5.0 化を図りたいという意識が低いという裏付けになっている。また、昨年度と今年度の卒業研究・卒業予備研究の内容を比較すると、昨年度同様の内容もあり新たな価値を創造したいという意識も見られない。昨年度の解決方策の工夫を実施するためにも、教員の Society5.0 化を図りたいという意識づけの向上が重要である。」

R5 年度「Society5.0 時代に即応できる保育者の育成を目的としている中で、各ゼミにおける Society5.0 の捉え方は様々である。全ての分野で ICT 化することが良いというわけではないが、Society5.0 保育者養成コースであるため、分野ごとにどのようなことができるのかを考えていかなければならない。Society5.0 を批判する分野があっても良いと考える。コース名と研究内容がかけ離れないように、教員と学生が良い一層話し合いながら、研究していくことが求められる。」

であり、コースの開設から課題解決に至っていない。卒業研究及び卒業予備研究で模擬保育室の Society5.0 化を図ることを目標に始まった Society5.0 保育者養成コースであるが、模擬保育室の Society5.0 化を図ることが現時点において出来ていない。

現在、保育現場の環境はここ数年で大きく変わり、幼児教育の在り方も変化している。例えば、STEAM 教育や英語教育など、幼小接続の観点から幼児教育も変化している。「Society5.0 社会の現場に即応する保育者」という不明瞭な教育目標から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを修得し STEAM 教育を実践できる保育者」に明瞭化及び学生の学習成果及び 3 つの方針を見直し、令和 7 年度から実施する。

○公務員養成コース

創設から現在まで公務員で活躍している保育者が出ていない要因は、公務員試験に向けた準備の中で公務員を目指すことを諦めてしまう学生が出ていることが主な要因であると分析する。公務員試験対策に至るまでの基礎学力（教養）の構築が重要であると考ええる。

基礎学力を身に付けるために、アプリケーションソフト「ラインズドリル」等を導入し授業外学習に力を入れる。ラインズドリル等の授業外学習の実施状況及び公務員の合格率を岡山短期大学 FD 委員会で点検する。

2. 経営改善計画最終年度における財務上の数値目標

当該目標：令和 10 年度に減価償却額補正後の経常収支差額を黒字化

人件費依存率 80%を達成するための数値目標

人件費依存率 80%を達成するためには、①人件費を減少と経常収入を増加のケース、②人件費を現状維持と経常収入を増加のケース、③人件費を徐々に増加と経常収入を大幅増加のケースがある。すでに人件費のスリム化を図り続けている本学では、①及び②のケースを実施することが困難であり、人件費を少しずつ上げつつ、経常収入を大幅上げる方策を選択すべきであると考ええる。（人件費のメリハリ化/経常収入の増加法）

○人件費のメリハリ化（メリハリ化による上昇率抑制） 令和 7 年度準備、令和 8 年度から実施

①新たな俸給表の作成（人事政策）

②人事評価システムの策定と運用

を行い、人件費のメリハリ化を図る。

また、私学法改正に合わせ令和 7 年度より原田博史理事長・学長が退職し原田俊孝副理事長・副学長に学長職を交代するため、人件費比率は必然的に下がる。原田博史理事長・学長は、学園長として令和 7 年度以降も学校運営に注力する。

○経常収入の増加法（経常収入の大幅増加）

経常収入の増加させるために、

①学生生徒等納付金方策

②寄付金戦略

を行い、経常収入の増加を図る。

①学生生徒等納付金方策（令和6年度から）

令和5年度の損益分岐点のキャッシュベースで収支がまわる岡山学院大学の学生数は138人であり、令和7年度の必要の入学者数は87人である。また、岡山短期大学の学生数は123人であり、令和7年度に必要な入学者数は90人である。

本計画は、キャッシュベースの収支がまわる入学者数を確保するための土台作りとして、入学定員の確保を当該目標としている。

②寄付金戦略（令和7年度から）

同窓生からの寄付金を募り、令和7年度から令和11年度までの5ヵ年で1億円を集めることを目標とする。

令和7年度：2000万円

令和8年度：2000万円

令和9年度：2000万円

令和10年度：2000万円

令和11年度：2000万円

○ 人事政策（令和8年度から）、大学・短大入学定員確保、寄付金確保（2000万円ずつ）

◆事業活動収支計算書（見込）（単位：千円）

区 分	金額の内容	R4 実績	R5 実績	R6 見込	R7 見込	R8 見込	R9 見込	R10 見込 (最終年度)
経常収入	実績・今回見込額	289,989	236,073	234,664	293,698	297,375	339,695	370,453
	5ヵ年計画策定時	—	—	234,664	293,698	297,375	339,695	370,453
	うち学生生徒等納付金	実績・今回見込額	190,306	139,890	171,821	198,250	231,060	261,760
	5ヵ年計画策定時	—	—	139,890	171,821	198,250	231,060	261,760
	うち経常費等補助金	実績・今回見込額	70,911	60,391	36,955	61,824	66,554	71,745
	5ヵ年計画策定時	—	—	36,955	61,824	66,554	71,745	75,396
経常支出	実績・今回見込額	507,218	474,465	498,876	475,458	458,975	463,192	457,907
	5ヵ年計画策定時	—	—	498,876	475,458	458,975	463,192	457,907
	うち人件費	実績・今回見込額	231,771	219,893	255,906	239,028	221,755	228,152
	5ヵ年計画策定時	—	—	255,906	239,028	221,755	228,152	223,547
	うち教育研究経費	実績・今回見込額	196,502	176,493	175,800	172,830	173,890	171,960
	5ヵ年計画策定時	—	—	175,800	172,830	173,890	171,960	171,530
	うち管理経費	実績・今回見込額	77,798	78,079	67,170	63,600	63,330	63,080
	5ヵ年計画策定時	—	—	67,170	63,600	63,330	63,080	62,830
	経常収支差額	実績・今回見込額	-217,229	-238,392	-264,212	-181,760	-161,600	-123,497
	5ヵ年計画策定時	—	—	-264,212	-181,760	-161,600	-123,497	-87,454
うち減価償却額	実績・今回見込額	95,798	93,327	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000
	5ヵ年計画策定時	—	—	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000
	減価償却額補正後の経常収支差額	実績・今回見込額	-121,431	-145,065	-169,212	-86,760	-66,600	-28,497
	5ヵ年計画策定時	—	—	-169,212	-86,760	-66,600	-28,497	7,546

3. 経営改善計画期間における重点事項及び経営資源等(予算、人員等)の配分に係る方針

経営改善計画期間における重点事項として、下記のように示す。経営改善を図る上で最も重要なのは、方針を確実に実施することで重点事項を達成し価値の向上を図ることである。大学・短大の価値を最大限に広報することで学校法人原田学園の経営は改善につながるものと確信する。

【重点事項】

- ・経営改善を図るための組織再生プロジェクト
- ・数理・データサイエンス・AI教育プログラムを修めた専門職人材の養成プロジェクト
- ・本学の高梁川流域活性化の貢献プロジェクト

【経営資源等（ヒト・モノ・カネ・ジョウホウ）の配分に係る方針】

学校法人原田学園経営改善計画の実施において、価値工学（Value Engineering）の概念を取り入れ全体的に改善をすることが出来るようにする。

価値（Value）＝機能（Function）／コスト（Cost）

○ヒト（機能向上：コト）

1-1 学校法人原田学園プロジェクトチームの運営方針

1-2 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを修めた人材（以下、Society5.0 人材）を養成するための方針

1-2-1 岡山学院大学 Society5.0 人材の養成方針

1-2-2 岡山短期大学 Society5.0 人材の養成方針

○モノ（機能向上：モノ）

2-1 Society5.0 人材専用施設「情報処理教育センター」の再整備（全体）

2-2 C 棟の充実化を図るための方針（岡山学院大学）

2-3 岡短みらい園の充実化を図るための方針（岡山短期大学）

2-4 学生満足度の充実を図るための施設の整備（全体）

○カネ（コスト：コスト削減と学納金・寄付金の拡充）

3-1 人件費依存率 80%実現するための方針

3-1-1 岡山学院大学の学生確保戦略

3-1-2 岡山短期大学の学生確保戦略

3-1-3 独自の人事評価システムの導入及び実施状況

3-2 一般寄付金を獲得するための方針

3-2-1 卒業生からの寄付金の獲得状況

3-2-2 同窓生からの寄付金の獲得状況

3-2-3 その他の寄付金の獲得状況

3-3 運営資金の確保

3-3-1 運営資金確保戦略

○ジョウハウ（広報）

4-1 マーケティングミックス（4P）に基づく広報戦略

4-2 倉敷市（高梁川流域圏）との連携及び強化を図るための方策

1-1 学校法人原田学園プロジェクトチームの運営方針 V字回復を図るための新たなプロジェクトチームを発足する。(5 (2) 参照)
1-2 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを修めた人材（以下、Society5.0 人材）を養成するための方針 1-2-1 岡山学院大学 Society5.0 人材の養成方針 令和7年度よりデジタル生活学部フードマネジメント学科と名称の変更をして、「数理・データサイエンス・AI 教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士の養成」と教育目標を明瞭にした。学生の学習成果、3つの方針を再整備した。教育の質保証を確保するために、学生の学習成果を焦点としたアセスメントサイクルに則り養成方針を点検する。 1-2-2 岡山短期大学 Society5.0 人材の養成方針 令和7年度より幼児教育学科は、「Society5.0 時代の現場に即応する保育者」から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを修得し幼児教育施設等で STEAM 教育を実践できる保育者」に明瞭にする。学生の学習成果、3つの方針を再整備する。教育の質保証を確保するために、学生の学習成果を焦点としたアセスメントサイクルに則り養成方針を点検する。
2-1 Society5.0 人材専用施設「情報処理教育センター」の再整備（全体） 情報処理教育センターを「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を実施するための施設として生まれ変わるよう再整備をする。具体的には、D 棟 2 階を PBL が実施できる情報機器の活用するための教室の整備、D 棟 1 階を上記の情報機器と同レベルの機器の導入など、さらに、D 棟 3 階は対話コミュニケーション力を身に付けるためのプレゼンテーション教室の整備等をする。
2-2 C 棟の充実化を図るための方針（岡山学院大学） 臨床栄養学実習室を再整備し、対象者に向けた対話型コミュニケーションが実施できる教室を整備する。
2-3 岡短みらい園の充実化を図るための方針（岡山短期大学） 英語教育の実施等、新たな価値を地域貢献活動につながる施設として岡短みらい園の充実化を図る。

2-4 学生満足度の充実に図るための施設の整備（全体） 学内の LED 化を 5 年かけて整備する。 トイレの老朽化問題等、学生満足度の向上を図るための施設を整備する（予定）	
3-1 人件費依存率 80%実現するための方針 3-1-1 岡山学院大学の学生確保戦略 教学改革政策と学生確保の方策を両輪として、岡山学院大学のブランド価値の向上を図る。(4 (2) (3) 参照) 3-1-2 岡山短期大学の学生確保戦略 教学改革政策と学生確保の方策を両輪として、岡山短期大学のブランド価値の向上を図る。(4 (2) (3) 参照) 3-1-3 独自の人事評価システムの導入及び実施状況 令和 8 年度より①新たな俸給表の作成（人事政策）②人事評価システムの策定と運用を実施し、メリハリ化を図る。	
3-2 一般寄付金を獲得するための方針 3-2-1 卒業生からの寄付金の獲得状況 学生満足度の向上を図ることで卒業生からの寄付金を獲得する体制を整える。 3-2-2 同窓生からの寄付金の獲得状況 令和 7 年度から 11 年度にかけて寄付金 1 億円を目標に、寄付金計画を実施する。 3-2-3 その他の寄付金の獲得状況 改組転換等、新たな取組を図るための寄付金確保の準備をする。(予定)	
3-3 運営資金の確保 3-3-1 運営資金確保戦略 M&A をするための計画を実施し、運営資金を確保する。	
4-1 マーケティングミックス（4P）に基づく広報戦略 プロジェクトチームで下記のマーケティングミックスの概念を取り入れ、広報戦略を実践する。	
Product (学生の学習成果) 岡山学院大学デジタル生活学部フードマネジメント学科の学生の学習成果 数理・データサイエンス・AI 教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士を養成 汎用的学習成果 デジタル生活人材養成科目 専門的学習成果 現代生活基礎科目 専門基礎分野 専門分野 岡山短期大学幼児教育学科の学生の学習成果 Society5.0 時代の現場に即応する保育者を養成 汎用的学習成果 専門的学習成果	Place (ターゲット) 【入試広報活動】 域内高等学校卒業生 域外高等学校卒業生 外国人留学生 社会人（リスクリリング支援） 【地域貢献活動】 同窓生 倉敷市の地域住民 高梁川流域連携の住民
Price (学費) 岡山学院大学デジタル生活学部フードマネジメント学科（令和 7 年度より） 入学金：25 万円、授業料：70 万円、教育充実費：20 万円、施設設備費：14 万円 外国人留学生の場合 入学金：25 万円、授業料：70 万円、教育充実費：25 万円、施設設備費：14 万円 岡山短期大学幼児教育学科 入学金：19 万円、授業料 62 万円、教育充実費：	Promotion (入試広報活動と地域貢献活動) 【域内高等学校卒業生】 高校訪問（高大接続連携） 高校訪問（岡山県、鳥取県、島根県、香川県、愛媛県、その他） ガイダンス（学校別、分野別、模擬授業） オープンキャンパス 【域外高等学校卒業生】 都市部の卒業生を呼び込むための大学・短大と地域おこし協力隊のパッケージ戦略（予定）

15 万円、施設設備費：5.7 万円	【外国人留学生】 日本語学校との包括協定による学生確保 【社会人】 リスキリング支援で、大学養成コースの科目等履修 高梁川流域連携事業に係る地域課題解決人材養成プログラムの実施（予定） 【同窓生】 創立記念日事業の実施（寄付金戦略との連携） 【倉敷市の地域住民】 倉敷市との包括協定における地域貢献活動（養成機関協議会など） 【高梁川流域圏の住民】 高梁川流域連携事業における地域貢献活動（未来人材戦略など）
4-2 倉敷市（高梁川流域圏）との連携及び強化を図るための方策 倉敷市（高梁川流域圏）との連携を強化し、地域に根付いた大学・短期大学のブランド価値の向上を図る。	

4. 実施計画（現状、問題点と原因、対応策）

(1) 建学の精神・ミッションを踏まえた学校法人の目指す将来像

本学は昭和 26 年 4 月、文化国家建設のためには、特に一般女性の学識教養の向上を図り、女性の地位を世界的標準に引き上げ、一般の学術文化に関する研究と家政特に被服の専門職業に関する教育を施すことを目的とし、また、大学教育を広く地方に普及させ、地域社会の要求である地域の成人教育の充実を使命として開学し、教育理念として教育三綱領「信念貫徹、自律創生、共存共栄」を掲げた。

この教育三綱領は本学の前身である大正 13 年開学の生石高等女学校から継承するもので、

信念貫徹：深き瞑想思索と不断の体験とにより道徳的信念強く実践力豊かな人間たること即ち自我の真諦に透徹せよ。

自律創生：道徳的理想に向かって人間の本務を体得（自律）し以って価値としての自我の創造につとめ以って校風の発展に努力せよ。

共存共栄：広く世界の趨勢に鑑み挙国一体共存共栄の精神を以って国家社会に対する責任を自覚し進んで人類の平和に貢献せよ。

となるが、学生に対して分りやすく「人は信念を持って生きるものであり、信念のない人は舵のない船のようなものである。信念とは人生の道であり、道は道路と同じで、必ず人が踏み行かなければならず、道を行かなければ怪我をし、過ちをする。信念をもって如何なることがあろうとも道はずさず生きるとの信念を徹底しなければならない。そして、この道は人により拓かれ、道徳的理想に向かって人の本務を体得するもので、価値としての自我の創造につとめるとともに校風の発展に努力し、更にはその道によって世界の人と交流し、世界の平和に貢献せよ。」と説いている。

建学の精神は、本学の創設者・設置者の教育理念・理想を源にする経営の自主性を示すものであり、本学の教育の目的・目標と学習成果を達成するための基礎となるものである。そのため本学はこれを明確にして学内外に示すとともに、学内において共有している。また、建学の精神は、本学の継続的な発展を遂げるために本学の個性・特色として継承するべきであるが、時代や社会のニーズと結び付いているか、定期的に点検しなければならない。

平成 22 年度の見直しでは、更に分かり易くするために表現を以下のようにした。

自律創生：物事をしっかりと見極め、継続的な体験と努力とにより人間としての品格を備え、実践的な行動力のある人間として成長せよ。

信念貫徹：人間として成長することを自らの人生の目標として定め、本学での継続的な学びと努力で目標の達成を実現せよ。

共存共栄：グローバルな視点で、日本人として共存共栄の精神をもち、社会人として果たすべき役割を自覚し、自ら進んで世界の平和に貢献せよ。

また、平成 24 年度の見直しでは、一層分かり易くするために表現を以下のようにした。

自律創生：道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

信念貫徹：目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

共存共栄：社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

さらに、令和 7 年度より留学生を本格的に受け入れることに合わせて、教育三綱領の英語訳を用意し留学生に対し建学の精神の説明をする。

Acquire the ability to take practical action（自律創生）

Practice continuous learning and hard work（信念貫徹）

Contributing to world peace（共存共栄）

（2）教学改革計画

①設置校・学部の特徴（強み・弱み、機会、脅威、内部外部環境分析）

【岡山学院大学】

令和 4 年度入試広報戦略会議で岡山学院大学・岡山短期大学の SWOT 分析を実施した。岡山学院大学の SWOT 分析は、今まで学科教員が入試広報を考えてこなかったため、SWOT 分析を十分に出来ていなかった。そこで、学科からのもらった資料を基に副理事長・副学長が整理し下記の通りにまとめた。

（岡山学院大学の強み）

学費が安い（1）

単科大学であるため、栄養学のことをしっかり学べる（2）

教員・職員（3）

専門性の高い教員・職員がいる

個性豊かな教員・職員がいる

学生（4）

管理栄養士になりたいという目標意識の高い

明るい

スマート OKAGAKU アクション（5）

ベストスタートプログラム

キャンパスライフプログラム

キャリアコネクトプログラム

原因不明の退学者減少

ミスマッチによる退学者減少

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（6） ※令和 6 年度追加

リテラシーレベルの認可

令和 7 年度から応用基礎レベルを実施

（岡山学院大学の弱み）

機能の充実を図ることが困難（1）

専門性以外のことを学ぶことが困難（2）

目標意識・向上意識を持っている教員・職員が少ない（3）

組織化が十分機能していない

公務分掌の体制が整っていない

人材・リソースが不足

研究機関として、企業・行政とのコラボ的調査・研究が少ない

外部資金の獲得等の強化が必要である
学生 (4)
2 年生になると意欲が低下する
人間関係で意欲が低下する
スマート OKAGAKU アクション (5)
教職員の認識不足
メンターを超えての情報共有ができていない
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (6) ※令和 6 年度追加
学生 (受験生) に対するミスマッチ

(岡山学院大学の機会)
地元志向の若者が一定数存在する (6)
様々な分野で管理栄養士の重要性が増大する (7)
学びなおしのニーズが増加 (8)
食育・健康・医療・理系・スポーツ分野から管理栄養士に関心がある (9)
オリンピックやワールドカップなどで日本人選手の活躍
香川県の栄養士養成施設が少ない (10)
高等教育の無償化 (11)
新型コロナの 5 類移行 (12)
健康寿命の延伸 (13)
Society5.0 社会・Z 世代の活躍 (14)
デジタル人材の不足 (15)

(岡山学院大学の脅威)
東京一極集中により 18 歳人口の流出増加 (6)
様々な分野で活躍しているため、管理栄養士での未来がみにくい (7)
学びなおしで管理栄養士のニーズがみえない (8)
食育・健康・医療・理系・スポーツ分野から管理栄養士に関心がある (9)
栄養系のニーズが低い
香川県の学生の取り合いが始まる (10)
社会の平均所得の格差が広がり、家庭の教育費・学費負担である (11)
コロナ禍の期間 (12)
景気回復が不透明
イベントがない
少子化 (13)
18 歳人口の減少
高齢者のデジタルディバイド (14)

(クロス分析【強み×機会】)
令和 5 年度

強み	機会	戦略
(2) (3) (4)	(6)	地方で活躍する管理栄養士・栄養士・一般職特集の実施
	(7)	オープンキャンパスで活用している管理栄養士の活躍図の更新 (学生のエピソードを含む)
	(8)	栄養学×Society5.0の確立 公式YOUTUBEチャンネルで大学講座を発信 (学生が登場)
	(9)	スポーツ栄養の実践 (教職員・学生が実験台)
	(10)	坂出第一高等学校と包括協定を結び、おかがくファンづくりを意識した講座を実施
	(13)	健康寿命延伸教室の質的向上とイベント出店
	(14)	栄養学×Society5.0の確立 フロムページ企画で大学教育の楽しさを発信

(クロス分析【弱み×機会】)

弱み	機会	戦略
(2) (3) (4)	(6) (7) (8) (9)	教員・職員・学生で情報共有を図る 各教員がスポーツ栄養についての研究を実施することで強みに代わる
	(13)	全年齢になるので、意欲向上に向けたイベントを実施することで強みに代わる
	(14)	学生が興味のある栄養学最新ニュースを随時発信

弱み	機会	戦略
(5)	(6) (7) (8)	「おかがくファンづくり」の方法が確立できれば、V字回復することができる。
	(9) (13)	地域貢献を意識したイベントに学生と共に参加して、他大学等から良いイベントを参考する (情報共有を必ず意識する) 朝市などに出店でできれば最も良い
	(14)	学生が興味のある栄養学最新ニュースを随時発信と管理栄養士になってやりたいことの意識づけに活用する。

令和6年度

強み (6) × 機会 (14)

戦略: 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの応用基礎レベルの実施から更なる差別化を図る。

強み (6) × 脅威 (7)

戦略: 岡山学院大学キャリア応援助成金制度を制定し、卒業後の未来を明瞭にする。

弱み (6) × 機会 (14) (15)

対策: 令和7年度に名称変更を図り、ミスマッチを解消する。

強みを最大限活かすために、「おかがくファンづくり」が、学生確保するために一番重要であることがわかる。また、「栄養学×Society5.0 の確立」するための行動計画、「地域貢献イベントの積極的企画・参加」など岡山学院大学が V 字回復を図るポイントが多数存在する。また、令和 6 年度から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの認定」という新たな強みがある。令和 7 年度より名称変更を図ることでミスマッチを解消し、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの応用基礎レベルの実施」と「岡山学院大学キャリア応援成金制度の制定」を行う。

経営改善計画で「おかがくファンづくり」「栄養学×Society5.0 の確立」「地域貢献イベントの積極的企画・参加」「数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの応用基礎レベルの実施」「岡山学院大学キャリア応援成金制度の制定」を重点に実施する。随時 SWOT 分析を実施する予定であるため、重点事項を随時点検・改良する。さらに、追加項目があれば実施管理表に反映する。

取組内容	おかがくファンづくりの強化
目的	学生確保するための最重要課題
実施方法	卒業生満足度及び卒業後の同窓生来学者数に係る FD・SD 活動の強化を図る。令和 10 年度は学生目標達成率 90%を目標にした。【岡山学院大学キャリア応援成金制度の制定, 評価, 改善】のキャリア応援成金制度と正の相関があると考えするため、FD 委員会で取り上げるなど純度の高い学生目標達成率を図っていく。
実施体制	学生の学習成果を焦点とするアセスメントサイクルに則り、大学 FD 委員会で点検する。
目標・実績値	【目標値】 R6 目標: 卒業生満足度 80%, 卒業後の同窓生の来学者数 20 人 R7 目標: 卒業生満足度 90%, 卒業後の同窓生の来学者数 40 人 R8 目標: 卒業生満足度 95%, 卒業後の同窓生の来学者数 50 人 R9 目標: 卒業生満足度 95%, 卒業後の同窓生の来学者数 60 人 R10 最終目標: 卒業生満足度 95%, 卒業後の同窓生の来学者数 80%, 学生目標達成率 90% 【実績値】 R5 実績: 卒業生満足度 77%, 卒業後の同窓生の来学者数不明 R6 目標: 卒業生満足度 80%, 卒業後の同窓生の来学者数 20 人 R7 目標: 卒業生満足度 90%, 卒業後の同窓生の来学者数 40 人 R8 目標: 卒業生満足度 95%, 卒業後の同窓生の来学者数 50 人 R9 目標: 卒業生満足度 95%, 卒業後の同窓生の来学者数 60 人 R10 最終目標: 卒業生満足度 95%, 卒業後の同窓生の来学者数 80%, 学生目標達成率 90%
実施時期	令和 6 年度～令和 10 年度
根拠・エビデンス	令和 6 年度～令和 10 年度: 卒業生アンケート 令和 10 年度～: キャリア応援支援制度と就職先の志望度

取組内容	栄養学×Society5.0 の確立と強化
目的	他大学との差別化の強化
実施方法	大学 FD 委員会で①国試対策ゼミに係る事項、②卒業生 MDA 修得率に係る事項を取り上げ、栄養学×Society5.0 の確立と強化を図る。また、令和 10 年度に養成コースに分け①国試対策ゼミに係る事項、②卒業生 MDA 修得率に係る事項を取り上げる。
実施体制	学生の学習成果を焦点とするアセスメントサイクルに則り、大学 FD 委員会で点検する。
目標・実績値	【目標値】 R6 目標: 管理栄養士受験率 (管理栄養士受験者数/卒業予定者数) 90%, 管理栄養士合格率: 60%, 卒業生 MDA 修得率 80%) R7 目標: 管理栄養士受験率 (管理栄養士受験者数/卒業予定者数) 90%, 管理

	栄養士合格率:70%, 卒業生 MDA 修得率 90%) R8 目標:管理栄養士受験率 (管理栄養士受験者数/卒業予定者数) 95%, 管理栄養士合格率:80%, 卒業生 MDA 修得率 100%) R9 目標:管理栄養士受験率 (管理栄養士受験者数/卒業予定者数) 95%, 管理栄養士合格率:90%, 卒業生 MDA 修得率 100%) R10 最終目標:管理栄養士受験率 (コース別) E コース 90%・FB コース 90%・RD コース 100%, 管理栄養士合格率(コース別))E コース 80%・FB コース 80%・RD コース 100%, 卒業生 MDA 修得率 (コース別)) E コース 90%・FB コース 100%・RD コース 100% 【実績値】 R5 実績:管理栄養士受験率 (管理栄養士受験者数/卒業予定者数) 89.4%, 管理栄養士合格率:11.8%, 卒業生 MDA 修得率 0%) R6 目標:管理栄養士受験率 (管理栄養士受験者数/卒業予定者数) 90%, 管理栄養士合格率:60%, 卒業生 MDA 修得率 80%) R7 目標:管理栄養士受験率 (管理栄養士受験者数/卒業予定者数) 90%, 管理栄養士合格率:70%, 卒業生 MDA 修得率 90%) R8 目標:管理栄養士受験率 (管理栄養士受験者数/卒業予定者数) 95%, 管理栄養士合格率:80%, 卒業生 MDA 修得率 100%) R9 目標:管理栄養士受験率 (管理栄養士受験者数/卒業予定者数) 95%, 管理栄養士合格率:90%, 卒業生 MDA 修得率 100%) R10 最終目標:管理栄養士受験率 (コース別) E コース 90%・FB コース 90%・RD コース 100%, 管理栄養士合格率(コース別))E コース 80%・FB コース 80%・RD コース 100%, 卒業生 MDA 修得率 (コース別)) E コース 90%・FB コース 100%・RD コース 100%
実施時期	令和 6 年度～令和 10 年度
根拠・エビデンス	令和 6 年度～令和 9 年度:就職グラフ (令和 6 年度卒業生から MDA 結果を入れる) 令和 10 年度～:就職グラフ (令和 6 年度卒業生から MDA 結果を入れる)、各コース別調査 (予定)

取組内容	地域貢献イベントの積極的企画・参加と評価、改善
目的	地域に根付いた大学としてのブランド化
実施方法	吉備創生カレッジの件数と受講者数、大学公開講座の件数と受講者数を PDCA サイクルで強化を図る。また、高梁川流域圏事業の参画に注力し学生ボランティアの貢献度を PDCA サイクルで強化を図る。
実施体制	学生の学習成果を焦点とするアセスメントサイクルに則り、大学 FD 委員会で点検する。
目標・実績値	【目標値】 R6 目標:吉備創生カレッジの講座数 5 件, 大学公開講座 5 件, 学生ボランティア活動 (学内行事は除く) 2 件 R7 目標:吉備創生カレッジの講座数 12 件, 大学公開講座 12 件, 学生ボランティア活動 (学内行事は除く) 5 件 R8 目標:吉備創生カレッジの講座数 15 件, 大学公開講座 15 件, 学生ボランティア活動 (学内行事は除く) 8 件 R9 目標:吉備創生カレッジの講座数 18 件, 大学公開講座 18 件, 学生ボランティア活動 (学内行事は除く) 11 件 R10 最終目標:吉備創生カレッジの講座数 20 件, 大学公開講座 20 件, 学生ボランティア活動 (学内行事は除く) 14 件 【実績値】 R5 実績:吉備創生カレッジの講座数 10 件, 大学公開講座 10 件, 学生ボランティア活動 (学内行事は除く) 2 件 R6 目標:吉備創生カレッジの講座数 5 件, 大学公開講座 5 件, 学生ボランティア活動 (学内行事は除く) 2 件

	R7 目標:吉備創生カレッジの講座数 12 件, 大学公開講座 12 件, 学生ボランティア活動(学内行事は除く) 5 件 R8 目標:吉備創生カレッジの講座数 15 件, 大学公開講座 15 件, 学生ボランティア活動(学内行事は除く) 8 件 R9 目標:吉備創生カレッジの講座数 18 件, 大学公開講座 18 件, 学生ボランティア活動(学内行事は除く) 11 件 R10 最終目標:吉備創生カレッジの講座数 20 件, 大学公開講座 20 件, 学生ボランティア活動(学内行事は除く) 14 件
実施時期	令和 6 年度～令和 10 年度
根拠・エビデンス	令和 6 年度～令和 10 年度:吉備創生カレッジ講座数、大学公開講座数、学生ボランティアの実施調査

取組内容	数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの応用基礎レベルの実施と評価、改善
目的	他大学との差別化の強化
実施方法	令和 7 年度より MDA 応用基礎レベルを実施し令和 8 年度に申請認可を図る。また、令和 10 年度までに応用基礎レベルプラスの申請認可を図り、他大学との差別化を図る。
実施体制	学生の学習成果を焦点とするアセスメントサイクルに則り、大学 FD 委員会で点検する。
目標・実績値	【目標値】 R6 目標:MDA の PDCA サイクル R7 目標:MDA の PDCA サイクル, 応用基礎レベルの実施 R8 目標:MDA の PDCA サイクル, 応用基礎レベル申請・認可 R9 目標:MDA の PDCA サイクル, 応用基礎レベルプラス準備 R10 最終目標:MDA の PDCA サイクル, 応用基礎レベルプラス申請・認可 【実績値】 R5 実績:MDA の PDCA サイクル R6 目標:MDA の PDCA サイクル R7 目標:MDA の PDCA サイクル, 応用基礎レベルの実施 R8 目標:MDA の PDCA サイクル, 応用基礎レベル申請・認可 R9 目標:MDA の PDCA サイクル, 応用基礎レベルプラス準備 R10 最終目標:MDA の PDCA サイクル, 応用基礎レベルプラス申請・認可
実施時期	令和 6 年度～令和 10 年度
根拠・エビデンス	令和 6 年度～令和 10 年度:大学 FD 委員会報告、FD・SD ワークショップ

取組内容	岡山学院大学キャリア応援助成金制度の制定, 評価, 改善
目的	他大学との差別化の強化
実施方法	令和 7 年度より 3 つの養成コースを設置し運営するので、それぞれのキャリアプランシートを作成しキャリア実践 PDCA サイクルを図る。令和 10 年度は、キャリア応援助成金制度該当者数から、【おかがくファンづくり】の学生目標達成率 90%を図る。
実施体制	学生の学習成果を焦点とするアセスメントサイクルに則り、大学 FD 委員会で点検する。
目標・実績値	【目標値】 R6 目標:在学生に対する岡山学院大学キャリア応援助成金制度のパンフレットの作成, キャリアプランシートの作成 R7 目標:1 年生のキャリアプラン作成, 評価, 改善

	R8 目標:1 年生・2 年生のキャリアプラン作成, 評価, 改善 R9 目標:1 年生・2 年生, 3 年生のキャリアプラン作成, 評価, 改善 R10 最終目標:1 年生・2 年生・3 年生・4 年生のキャリアプラン作成, 評価, 改善, キャリア応援助成金制度該当者数 36 名 【実績値】 なし
実施時期	令和 6 年度～令和 10 年度
根拠・エビデンス	令和 6 年度～令和 10 年度：大学 FD 委員会

【岡山短期大学】

（岡山短期大学の強み）

- ・倉敷駅からの無料バス。
- ・多額の借金がないところ。
- ・SNS の更新頻度が高く、様々な人に見てもらえる状態であること。
- ・近年の就職率がほぼ 100%である。
- ・短大としての歴史が長い
- ・近隣に多くの卒業生がいる（支援者が多い）
- ・本学を信頼する高校（高大接続連携校など）がある
- ・小規模大学なので、学生の把握・指導がしやすい
- ・小規模大学なので、短時間で実行・改善ができる
- ・本学の「模擬保育室（おかたんみらい園）」は、施設・設備に含めて、地域貢献の度合いなどが県内でも有数である。
- ・「おかたん子育てカレッジ」が充実している。
- ・「おかたん子育てカレッジ」について、実際に高い評価を得ている。
- ・「学生との距離が近い大学・短大」として、実際に学生からの評価が高い。
- ・人的資本（人材）の一部が県内にないぐらい、「仕事」をしようと努めていること。（「労働」のみの人が減っているということ）
- ・歴史があり、卒業生が多い。
- ・現場経験豊かな教員の存在。
- ・SNS 等で積極的な発信を行っている。
- ・数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの認定 ※令和 6 年度より

（岡山短期大学の弱み）

- ・名物教員と呼ばれるような教員がいないこと（例えば TV で有名な先生であつたり、研究分野・専門分野で名が知れ渡っていたりなど）。
- ・保育者養成の学校であるが女性の専任教員が少ないこと（学生が女性に先生に相談したい時にできないように見える）。
- ・建物の老朽化。新設または綺麗な建物が一つもない。
- ・Society5.0 に向けた教育を掲げているが、高校よりも設備及び機器が古すぎる。
- ・JR 駅から遠い
- ・施設の老朽化
- ・学科、学生数が少ない（不活発な印象）
- ・教職員数が減少し、個々の業務が多忙になっている
- ・人的資本の高齢化、大学教員としてのレベルの低さ
- ・物的資本の老朽化
- ・運用財産などの減少により、人的資本や物的資本への投資ができない。
- ・短大としての将来の展望を描けていない。
- ・「物言わぬ教員」の存在や「自分の頭で考えない教員」の存在が短大の回復や成長を阻害している。
- ・基本的生活習慣、家庭学習習慣、マナーが身につけていない学生の増加。
- ・業務量に対しての教職員不足。
- ・教職員間の学生指導観の違い。
- ・学生が教職員に悩みを相談しにくいと感じている状況。
- ・短大に女性の助手がいない（学生の指摘）
- ・OC の印象は「他大学と比べて男性教職員のみがガンガン前に出ている感じ。これば他の学校には無い特色で異彩を放っているが、男臭い感じもして、もう少し女性感覚があっても良い」（学生の指摘）
- ・数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに関係する授業が苦手である学生が多い。※令和 6 年度より

（岡山短期大学の機会）

- ・2 コース制が浸透してきている。
- ・地域の子育て支援として、模擬保育室の開放が浸透してきた。

- ・倉敷市とうまく連携することができれば、幾らかの補助金を確保でき、模擬保育室の発展につながる。
- ・保育士不足による就職先の確保。
- ・給料の賃上げ。
- ・Society5.0 時代に対応した教育内容の構築
- ・恵まれた自然環境の活用
- ・地域貢献活動（子育てカレッジ）の教育への活用
- ・保育業界は昨今の「子育て支援」や「少子化対策」などの重要性によって、求職者 1 人あたり、何件の求人があるかを示す数値である「有効求人倍率」についてみれば、保育士は 2022 年 4 月時点で「1.98 倍」（岡山：1.82 倍、広島：2.35 倍）あり、全職種平均が 1.17 倍となっていることから、保育士の有効求人倍率は高い水準で推移しているため、「求人」に関して言えば保育業界は不安が少ない。
- ・一部の高校側の本学への評価がプラスのイメージに変化しつつある。
- ・「こども政策の新たな推進体制に関する基本方針」（令和 3 年 12 月 21 日閣議決定）に基づく「こども家庭庁設置法」及び「こども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律」の成立にともなって、現実的に保育業界に追い風となるような動きが加速すれば、高校生としては「保育者」を目指す人が増加する可能性がある。
- ・高等教育の（無償化とまではいかないが）費用が出来るだけ抑えることができるような支援の充実
- ・「おかたん子育てカレッジ」について、倉敷市側よりの高評価、親子クラブよりの高評価を得られるようになってきた。
- ・卒業生が保育現場で多く活躍しており、実習先や就職後も後輩たちをフォローしてくれている。
- ・歴史ある大学。
- ・保育現場での ICT 化が進んできており、Society5.0 コースはこれから更に認知されるようになるのではないかな
- ・倉敷市との包括協定 ※令和 6 年度より（岡山短期大学の脅威）
- ・日本の人口の減少。
- ・保育者養成の高学歴化（いわゆる四大進学化）。
- ・保育者の賃金の低さ。
- ・広告内容及び掲載方法（例えば OC 用の広告を作成しているところ）。
- ・18 歳人口が減少傾向である
- ・保育施設での事故・事件（の報道）によって保育職へのマイナスイメージが広がる
- ・保育職の多忙さ・責任の重さ、それに見合う待遇の改善が大きく進まない
- ・県内に保育者養成校が多い
- ・18 歳人口の減少
- ・中央行政、地方行政の私学助成などを含めた高等教育改革の動向
- ・「保育業界」へのマイナスイメージの増大
- ・高校生の「短大」志向から「4 大」志向への転換
- ・周辺他大学の経営資源への投資（学部・学科の新設や改組転換、新しい建物などの建設）
- ・少子化
- ・入学志願者の減少
- ・α 世代（2022 年において 12 歳以下の世代）の人口比率が減少しているのは日本だけで、海外に目を向けるとその世代は歴史上で最大数になるとのこと。デジタルネイティブの子ども・物を所有することよりも体験に価値を感じる親・海外に視野を広げる必要がある α 世代やその次の世代のマーケティング…それらを繋ぐものとして、Society5.0 保育は地域や国を飛び越えて多様な発展をするかもしれない。
- ・話が外部要因分析から離れるが、これから先の保育が従来の保育園の枠にとどまらない可能性があることを考えると、思い切って「子ども」×「体験」×「ICT」に特化したゼロ免課程設置も面白いかもしれない。（←子どもや表現活動は好きだけど保育の現場で働くことは考えていない人や、子どもをターゲットにした事業を立ち上げたい人が集まるかも？）
- ・2000 年頃からお堅い報道番組だけでなく、アニメなどサブカルチャーを通じて国民の間に急速に浸透し、現在ではある程度定評を得ている「里山教育」「里山保育」が本学の最後に残された資産である「有城の丘」に適用できる

(2) クロス分析をしてみる

<4><9> <12>と (14)のクロス	事業対策:「親子クラブ受入れ事業(仮称)」は活動場所を求めている親子クラブと、 “日常的に子どもと関わりたい”という学生の希望とがうまくマッチしている。親子から「里山保育」の要望があるのでプログラムを学生と共に立案して実施し、積極的に利用していただいて動員人数も増やす。 研究対策:里山保育プログラム開発には研究が必要である。「里山文化・保育研究所(仮構想)」を作って里山保育の流れをリードし、所報に研究成果を発表して業績とする。 社会貢献対策:天城学区の親子クラブ(知名度が低くなり消滅の危機に瀕している)を倉敷市立天城幼稚園(入園者激減に悩んでいる)と協力しながら支援して復活させ、倉敷市および健康福祉プラザに対する社会貢献とする。 募集商材対策:「毎週子どもたちがやってくる短大」「キャンパス内に常時子どもの姿が見られる短大」として“附属園(実は子どもと関わる機会はずか)を持たない岡短”の学生募集商材のひとつとする。
<2>	親子クラブに参加したお母さんが、学生と一緒に遊んでもらうのを希望していたので、この日は学生がいて遊べる日をつくっては、どうだろうか。
<7>	もっと、高校生だけでなく親や教師にアピールする方法がないだろうか。
<1>と(3)	コース別に具体的にどのようなことをしているのかを、SNSを活用し明確に示す。
<2>と(13)	学生が企画・運営する、イベントを実施する。企画・運営等に関しては現場経験豊富な教員が十分なサポートを行う。
<3>と(8)	地域貢献度が高いため、倉敷市等と連携し、金銭的支援を獲得することで、さらなるSociety5.0に向けた施設・設備になる。
<4>と(6)	最先端な事柄を取り入れながら、これまでの歴史ある文化等について深めていき、超最新・歴史の両方ともに強い大学にする。
<5>と(5)	地域貢献活動を活性化し、高校からの信頼をより高めていく。
<6>と(7)	保育業界への就職に不安はないため、一般職希望の学生に対して、さらなる情報の提供をできるようになると、就職全般に関して良くなる。
<7>と(14)	プラスのイメージがある高校に「親子クラブ受け入れ事業(仮称)」について周知していただき、高校から高校へ話題が広まっていくようはたらきかける。
<8>と(1)	金銭的に余裕のない学生においても、十分な支援があることを明確化する。高校生が要項等を読んでもできるだけわかりやすいものを作成し、HP等に公開する。
<9>と(2)	様々な補助金制度等を活用し、倉敷市を大きく巻き込んだ事業の実施。
<10>と (11)	卒業生と在学生がたくさん関われるような機会を増やす。
<11>と (12)	保育現場のICTを導入することも大切であるが、さらにそのICTをどのようにうまく活用できるのかを検討する。そして卒業生を対象としたICTに関する意見交換の場を設ける。
<12>と(4)	積極的な「里山教育」「里山保育」の活動を行う。多くの学生が「里山教育」で培ったものを活かしていける。

< 2 >	模擬保育室の一般開放をさらに進める
< 3 >	授業内容として現代のスマート保育を学ぶ機会をより多く設ける
< 4 >	自然環境を活かした授業内容を設定する
< 5 >	自然環境を子育てカレッジに活かす
< 6 >	子育てカレッジ（親子クラブに利用）を授業内容に取り入れる
〈1〉 〈2〉 〈4〉 〈5〉 〈9〉 〈11〉 〈12〉 〈14〉	事業対策：「おかたん子育てカレッジ」の高評価・「親子クラブ受け入れ事業」の初動の好感触を活かし、これから発展させるために、豊かな自然環境と里山を活かしたプログラムを Society5.0 コース各ゼミで企画立案し、卒業予備研究発表会場でプレゼン、そこでの指導講評を活かし次年度のゼミでは具体的にそれぞれのゼミが順番に親子を対象にした活動を実践。多くの親子に参加していただく。 研究対策：教員の数・学生の授業数等を考えると、新たな研究担当部門の設立は負担が大きいため、Society5.0 コースのゼミの時間を使うのが現実的ではないか。ゼミの活動内容はインターネットでも詳しくアップし、運動会や発表会にも活かしてはどうか。公開講座も里山保育を切り口にしたものを開講できたら良い。（現在 Society5.0 をテーマに各ゼミ活動を進めているが、学生の様子を観ると人・モノ・出来事との経験値不足から、Society5.0 と保育の豊かなイメージも広がりにくくなっていると感じる。具体的に実践し、それらを発信したり共有したり、参加者の状況をより的確に把握しようと思った時、保育現場の ICT 化の意義がリアルに感じられ、来る Society5.0 保育へのビジョンやその中で自分は何をするべきかなど、自分の課題を発見できるのではないか。） 社会貢献対策：近隣の放課後児童クラブとも連携をしながら、地域のニーズについて常に情報を集め、時々児童クラブの子どもも受け入れることができれば、柔らかに繋がりが合う子どもの居場所づくりができ、社会に貢献できるのではないか。 募集商材対策：豊かな自然・有城の里山で、柔らかに子どもと関わりあえる Society5.0 時代のコミュニティーを創ってみるという、未来志向でありながら地に足の着いた保育の実践を PR ができるので、大きな募集商材になるのではないか。
2. 5. 6. 7. 8.	・模擬保育室を利用した授業を行い、実践をふまえた魅力のある授業であることをオープンキャンパスや SNS 等でしっかりアピールする。 ・親子クラブ活動と共に、「保護者支援」として月に 1 回程度で親の相談を受けてはどうか・・・保護者からの評判アップにつなげる。又、それが職員は授業の糧とする。 ・高等学校への訪問の幅を少し広げる。 ・100%の就職を確実なものとし、実績を上げるよう職員も動く。
(2)	保育者養成の学校であるが女性の専任教員が少ないこと
(12)	歴史があり、卒業生が多い ↑特別専任の先生方を含めれば女性教員が少ないとはいえません。OC などで特別専任の先生方にもご活躍いただく企画を検討すると良い野ではないでしょうか。例えば、今まで各コーナーを担当いただくだけでしたが、全体説明の際に「保育の魅力」「これから保育を学ぶ人に期待すること」などを保育現場経験があり本学卒業生であるお 2

	人の先生に5分ほどお話しただけでも印象は違うかと思います。
<4>	恵まれた自然環境、歴史ある大学の活用
<12>	「里山教育」「里山保育」が本学に残された資産で“建て替え不要”の資産である「有城の丘」に適用できる ↑森の幼稚園として、キャンパスの自然・季節を活かした保育活動ができると思います。また、森の幼稚園（自然を活かした保育）に興味ある保育者も少なくなく、その方々を対象とした研修も可能と考えます。自然や環境教育に関する資格種と特（ネイチャーゲームリーダー、グローイングアップワイルドなど）も学生や一般を対象に行えば、現時点で中四国では開催しているところが少ないので差別化が図れるかと思えます。

令和6年度

「岡短みらい園の強化」は令和5年度と同様最重要であることは変わらない。「数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定」により、岡山短期大学の強みがより明瞭になった。設備については、情報処理教育センターを再整備することで改善することができる。また、基礎教育科目のカリキュラム編成を見直し、「STEAM教育の理論と実践」並びに「プログラミング教育」を取り入れ、次世代の保育士養成を確立する。さらに、阪急グループとの連携により「プログラミング教育」を地域貢献に取り入れ、プログラミング教室を実施する。

取組内容	岡短みらい園の強化（教育と地域貢献）
目的	他大学との差別化と地域に根付いた短大としてのブランド化（最重要課題） 同窓生寄付金戦略の一環
実施方法	岡短みらい園の強化はFDで点検し改善していく。差別化を図る上で最重要項目であると考ええる。
実施体制	学生の学習成果を焦点とするアセスメントサイクルに則り、短大FD委員会で点検する。
目標・実績値	【目標値】 R6 目標：利用者数 700 人, 創立 70 周年事業参加者数（地域住民 115 名, 見学者（本学関係者除く 30 名, 同窓生 50 名）, 英語教育システムの導入 R7 目標：利用者数 700 人, 英語教育実践参加者 100 人, 創立記念日事業の実施 R8 目標：利用者数 800 人, 英語教育実践参加者 150 人, 創立記念日事業の実施 R9 目標：利用者数 800 人, 英語教育実践参加者 200 人, 創立記念日事業の実施 R10 最終目標：利用者数 850 人, 英語教育実践参加者 250 人, 創立記念日事業の実施 【実績値】 R6 実績：利用者数 700 人
実施時期	令和6年度～令和10年度
根拠・エビデンス	令和6年度～令和10年度：短大FD委員会

取組内容	数理・データサイエンス・AI教育プログラムの強化（教育）
目的	他大学との差別化の強化
実施方法	数理・データサイエンス・AI教育プログラムの強化を図り、他大学との差別化を図る。具体的には、令和8年度に向けてリテラシーレベルプラス準備を進め、令和9年度の申請・認可をする。

実施体制	学生の学習成果を焦点とするアセスメントサイクルに則り、短大 FD 委員会で点検する。
目標・実績値	【目標値】 R6 目標：MDA の PDCA サイクル R7 目標：MDA の PDCA サイクル R8 目標：MDA の PDCA サイクル, リテラシーレベルプラス準備 R9 目標：MDA の PDCA サイクル, リテラシーレベルプラス申請認可 R10 最終目標：MDA+の PDCA サイクル 【実績値】 なし
実施時期	令和 6 年度～令和 10 年度
根拠・エビデンス	令和 6 年度～令和 10 年度：短大 FD 委員会

取組内容	STEAM 教育の理論と実践とプログラミング教育（教育）
目的	他大学との差別化の強化
実施方法	幼小接続の観点を取り入れ、STEAM 教育の理論と実践とプログラミング教育の授業を実施する。授業は FD で取り上げ PDCA サイクルで改善する。
実施体制	学生の学習成果を焦点とするアセスメントサイクルに則り、短大 FD 委員会で点検する。
目標・実績値	【目標値】 R6 目標：STEAM 教育の理論と実践とプログラミング教育のカリキュラム開発 R7 目標：STEAM 教育の理論と実践とプログラミング教育の PDCA サイクル R8 目標：STEAM 教育の理論と実践とプログラミング教育の PDCA サイクル R9 目標：STEAM 教育の理論と実践とプログラミング教育の PDCA サイクル R10 最終目標：STEAM 教育の理論と実践とプログラミング教育の PDCA サイクル 【実績値】 なし
実施時期	令和 6 年度～令和 10 年度
根拠・エビデンス	令和 6 年度～令和 10 年度：短大 FD 委員会

取組内容	阪急グループと連携したプログラミング教育（地域貢献）
目的	他大学との差別化の強化と地域に根付いた短大としてのブランド化
実施方法	幼小接続の実践的な地域貢献として、阪急グループと連携したプログラミング教育を実施する。地域貢献だけでなく、在学生の教育と卒業後のプログラミング教育実践の場として期待できる。
実施体制	令和 7 年度から隔週でプログラミング教室の実施を目標とする。
目標・実績値	【目標値】 R6 目標：阪急グループと連携したプログラミング教育の導入 R7 目標：プログラミング教室の参加者数:30 人 R8 目標：プログラミング教室の参加者数:40 人 R9 目標：プログラミング教室の参加者数:45 人 R10 最終目標：プログラミング教室の参加者数:45 人 【実績値】

	なし
実施時期	令和6年度～令和10年度
根拠・エビデンス	令和7年度～令和10年度：プログラミング教室の参加者数とアンケート調査

②学部等の改組・募集停止・定員の見直し等

【学部等の改組】

ミスマッチの解消のため、令和7年度に岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科はデジタル生活学部フードマネジメント学科の名称に変更する。教育目標は「数理・データサイエンス・AI教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士の養成」である。具体的にはフードビジネスアントレプレナーとなる「次世代フードビジネスアントレプレナー養成コース」、フードビジネス人材となる「次世代フードビジネス人材養成コース」、更に、次世代の管理栄養士となる「次世代管理栄養士養成コース」を設ける。留学生を多く受け入れる体制を整える予定である。

経営改善計画通りに進行することができるのであれば、令和9年度にデジタル人材不足の解消により貢献することができる学科「デジタルメディア学科」を創設する予定である。教育目標は「我が国の地域のデジタル人材不足に対応する情報メディア教育に重きをおく大学教育を施し、デジタル人材として時代の進運に応じ、Society5.0で実現する地域社会の指導たる人材の養成」である。具体的には「デジタル文化コース」、「デジタルアートコース」、「デジタル経営コース」、「デジタルマーケティングコース」を設け、2030年問題、2035年問題、2040年問題の課題解決人材を養成する。デジタルメディア学科は留学生を多く受け入れる体制を整備する。

短大は、倉敷市との包括協定の基、社会・地域等の発展に不可欠である数理・データサイエンス・AI教育プログラムを修めた保育者の養成に注力する。経営改善計画通りに進行することができるのであれば、令和9年度に地域の発展に不可欠であるデジタル人材を輩出する地域総合科学科「キャリア実践総合学科」を創設する予定である。具体的には、デジタル人材の起業家として高梁川流域圏の活性化に貢献する「アントレプレナーコース」、ITパスポート試験や情報セキュリティマネジメント試験の資格を取得し卒業後はデジタル人材として高梁川流域圏の活性化に貢献する「デジタルヒューマンコース」、4年制大学に編入学をしてより専門的知識を修める「アカデミックコース」を設ける。キャリア実践総合学科は留学生を多く受け入れる体制を整備する。また、岡山短期大学専攻科である幼児教育専攻をデジタル幼児教育専攻と名称を改め、数理・データサイエンス・AI教育プログラム応用基礎レベル及び高度な幼児教育の技術の向上と応用能力を修めた保育者を養成する専攻科を配置する。修了後のキャリアとして、高度な幼児教育を修めた数理・データサイエンス・AI教育プログラム人材として活躍する「次世代保育者養成コース」、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを基礎とし将来的に小中規模保育園を起業し地域社会の課題解決人材で活躍する「保育園起業家コース」を整備する。

改組計画は下記の通りである。ケースによって異なる。

入学定員超過のケース

学部等の改組計画①

	岡山学院大学		岡山短期大学		
	デジタル生活学部				
	フードマネジメント学科	デジタルメディア学科	幼児教育学科	岡山短期大学専攻科 デジタル幼児教育専攻	キャリア実践総合学科
令和7年度	44	—	40		—
令和8年度	50（定員変更申請 50）	—（認可申請 40名定員）	44（定員変更申請 50）	10	—（認可申請 70名定員）
令和9年度	55	40	50	10	70
令和10年	60（定員変更申請 60）	40	55（定員変更申請 55）	10	70

度	請 60)		申請 60)		
令和 11 年度	60	40	60	10	70

入学定員確保のケース
学部等の改組計画②

	岡山学院大学		岡山短期大学		
	デジタル生活学部				
	フードマネジメント学科	デジタルメディア学科	幼児教育学科	岡山短期大学専攻科 デジタル幼児教育専攻	キャリア実践総合学科
令和 7 年度	40	—	40		—
令和 8 年度	40（中間点検）	—（認可申請 40 名定員）	40（倉敷市相談）	10	—（認可申請 70 名定員）
令和 9 年度	40	40	40	10	70
令和 10 年度	40	40	40	10	70
令和 11 年度	40	40	40	10	70

【募集停止】

募集停止をするケースは、下記のとおりである。定員割れケースは 2 通りあり、収容定員が 0.51 を基準としている。学生の卒業までの運営資金は、修学機会を適切に確保する。

定員割れケース（収容定員 0.51 超過）
学部等の改組計画③

	岡山学院大学		岡山短期大学	
	デジタル生活学部			
	フードマネジメント学科	デジタルメディア学科	幼児教育学科	キャリア実践総合学科
令和 7 年度	28	—	30	—
令和 8 年度	30（募集停止）	—（認可申請 40 名定員）	35（倉敷市相談）	—
令和 9 年度	—	40	35（募集停止）	—（認可申請 70 名定員）
令和 10 年度	—	40	—	70
令和 11 年度	—	40	—	70

定員割れケース（収容定員 0.51 以下）
学部等の改組計画④

	岡山学院大学		岡山短期大学	
	デジタル生活学部			
	フードマネジメント学科	デジタルメディア学科	幼児教育学科	キャリア実践総合学科
令和 7 年度	20	—	20	—
令和 8 年度	30（募集停止）	—	20（倉敷市相談）	—

令和9年度	—	—	20（募集停止）	—
令和10年度	—	—	—	—
令和11年度	—	—	—（閉学）	—
令和12年度	—（閉学）	—	—	—

③カリキュラム改革・キャリア支援等

【岡山学院大学】

○カリキュラム改革

別紙①のとおり、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム応用基礎レベル及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士」養成に必要なカリキュラムを編成する。別紙②のとおり、管理栄養士の将来像を示し3つのコースを設ける。また、令和7年度より学費なども上げる方向である。

1-2-1 岡山学院大学 Society5.0 人材の養成方針

○キャリア支援等

フードマネジメントキャリア支援室を整備する。具体的機能は食物栄養学科キャリア支援室の機能を保ちつつ、3つのコースに適したキャリア支援を行う。令和8年度から情報処理教育センターで産学官連携ワークショップを開催し卒業後の進路を明瞭にする。また、本学独自エンロールメントサポートである「スマート OKAGAKU アクション」をPDCAで回すことが重要であり、スマート OKAGAKU アクションの実施状況はFD委員会にて点検し全学的に改善する。

1-2-1 岡山学院大学 Society5.0 人材の養成方針

【岡山短期大学】

○カリキュラム改革

別紙③のとおり、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラムリテラシーレベルを修めた保育者」養成に必要なカリキュラムを編成する。数理・データサイエンス・AI 教育プログラムのみならず、STEAM 教育の理論と実践や高梁川流域の活性化など、次世代の保育者に必要な学びを提供する。

1-2-2 岡山短期大学 Society5.0 人材の養成方針

○キャリア支援等

Society5.0 保育者養成コース及び公務員養成コースで卒業後の進路の方向性を示しているところであるが、上記1の通り特色を十分に活かすことが出来ていない。Society5.0 保育者養成コースは、FD委員会にて点検し改善しているところである。教育の質保証の観点から、短大においても、キャリアプラン応援助成金を取り入れ将来像を明瞭にする。また、公務員養成コースでも、FD委員会にて点検し改善しているところである。現時点において、公務員養成コースから公務員として働く卒業生は輩出していない。キャリアプラン応援助成金を取り入れ将来像を明瞭にして、一般教養の獲得をめざすライズドリルを導入し公務員合格をめざす。

1-2-2 岡山短期大学 Society5.0 人材の養成方針

(3) 学生募集対策と学生数・学納金等計画

【学生募集対策】

○岡山学院大学

・域内高等学校卒業生における学生募集対策（高梁川流域圏の市町、香川県、愛媛県、広島県東部、鳥取県、島根県）

域内高等学校は、高等学校からの信頼・信用が重要であり、前経営改善計画の「信用からはじまる広報」が重要であることは変わらない。「信用からはじまる広報戦略」は下記の通りである。

<共通戦略>

①おかがく・おかたん魅力づくりと発信戦略

魅力づくり

◆ 入試広報戦略会議結果を踏まえたPDCAサイクル

- ◆ 高大接続連携戦略
 - 入学前から輝くためのエンロールメントサポート
 - 信頼につながる高校訪問
- ◆ 地域貢献における戦略（高梁川流域連携事業での貢献）
- ◆ 産学官連携戦略
- ◆ その他

発信法

- ◆ オープンキャンパスの参加者増加につながる発信
 - オープンキャンパス内容の質的向上
 - ◇ 新規開拓戦略
 - ◇ リピーター戦略
 - ガイダンス業務の質的向上
 - HP 更新の質的向上
 - SNS 発信業務の質的向上

<大学戦略>

②デジタル生活学部フードマネジメント学科における広報戦略

- ◆ 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）の実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCA サイクル）
 - ◆ 健康寿命延伸教室の実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCA サイクル）
 - ◆ スマート OKAGAKU アクションの実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCA サイクル）
- ##### ③一般選抜受験の強化を図るための戦略（進学校（リクルート調査偏差値 50 以上）受験強化）
- ◆ 一般選抜の課題と解決方策の工夫（PDCA サイクル）

・域外高等学校卒業生における学生募集対策（都市部など）

18 歳人口の減少且つ地方の人口流出問題から、中国・四国の域外高等学校からの学生募集は困難であると考えます。そのため、関東（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）、関西（大阪府、京都府京都市、兵庫県神戸市）、沖縄県等、人口が増加している都道府県に対し学生募集対策をする。

・留学生における学生募集対策

本学は、大阪府に所在する日本語学校 2 校と包括協定を締結し、積極的に留学生を受け入れる体制を整えている。また、令和 7 年度から留学生を受け入れる体制を整えるために、学費を上げる方向であるが、留学生については、追加として教育充実費並びに施設設備費の値上げをする予定である。

①おかがく・おかたん魅力づくりと発信戦略 ①-1 入試広報戦略会議結果を踏まえた PDCA サイクル ①-2 高大接続連携戦略 ①-3 地域貢献における戦略（高梁川流域連携事業での貢献） ①-4 産学官連携戦略 ①-5 その他 ①-6 オープンキャンパス戦略 ①-6-1 新規開拓戦略 ①-6-2 リピーター戦略 ①-7 ガイダンス戦略 ①-8 ウェブ戦略 ①-8-1 HP ①-8-2 SNS ②デジタル生活学部フードマネジメント学科における広報戦略 ②-1 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）の実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCA サイクル）※教学改革政策が広報へ ②-2 健康寿命延伸教室の実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCA サイクル） ②-3 スマート OKAGAKU アクションの実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCA サイクル） ③ 一般選抜受験の強化を図るための戦略（進学校（リクルート調査偏差値 50 以上）受験強化） ③-1 一般選抜の課題と解決方策の工夫（PDCA サイクル） ・域外高等学校卒業生における学生募集対策（都市部など） ・留学生における学生募集対策	
①-1 入試広報戦略会議結果を踏まえた PDCA サイクル（令和 6 年度～） 毎年 1 月もしくは 2 月に入試広報戦略会議を全学的に実施し大学の SWOT 分析をする。学生確保の方策、教学改革政策に反映する。 ①-2 高大接続連携戦略（令和 6 年度～） 第三者評価の一つとして、学生の学習成果を焦点としたアンケートを実施しているところであるが、それに加えて、高大接続連携校の高校生の行動分析と次年度に向けた対策をする。 ①-3 地域貢献における戦略（高梁川流域連携事業での貢献）（令和 6 年度～） 高校生と直接関わる高梁川流域連携事業に参画し、共に地域貢献をする体制を整える。 ①-4 産学官連携戦略（令和 7 年度～） 倉敷市との包括協定の基、食環境戦略イニシアチブに関係する取組をする。 ①-5 その他（令和 7 年度～） ①-1 で抽出した強みをその他に入れて学生確保の方策として注力する。 ①-6 オープンキャンパス戦略（令和 7 年度～）※令和 6 年度は名称変更の関係で 8 月 27 日から広報活動を開始（参考値） 入学予定者数分析（オープンキャンパスアンケート結果から分析） ①-6-1 新規開拓戦略 3 年生新規参加者数（ファーストコンタクト数、セカンドコンタクト数、サードコンタクト数、その他）、2 年生新規参加者数（ファーストコンタクト数、セカンドコンタクト数、サードコンタクト数、その他）、1 年生新規参加者数（ファーストコンタクト数、セカンドコンタクト数、サードコンタクト数、その他）から新規開拓戦略をする。 ①-6-2 リピーター戦略 【OC リピータ参加者数/OC 参加者数】からのリピーター比率を計算し入学予定者数分析をする。その際、上記のコンタクトから戦略を組み立てることを念頭におく。 ①-7 ガイダンス戦略（令和 7 年度～）※令和 6 年度は名称変更の関係で 8 月 27 日から広報活動を開始（参考値） ①-6-1、①-6-2 の分析につながるよう、ガイダンス（学校別、分野別、模擬授業）戦略別に組み立てる。具体的には、学生と教職員の距離が近い」が達成できるガイダンスを行う。	

①-8 ウェブ戦略（令和6年度～） ①-8-1 HP 令和6年度9月～10月にデジタル生活学部フードマネジメント学科LPを立ち上げ広報する。他大学と差別化を図ることができるようキャリア構成型LPとして立ち上げ卒業後のイメージを構築させていく。 ①-8-2 SNS 学生生活がみえるようにSNS広報を行っていく。
②-1 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCAサイクル）※教学改革政策から学生確保の方策へ 令和7年度よりMDA応用基礎レベルを実施し令和8年度に申請認可を図る。また、令和10年度までに応用基礎レベルプラスの申請認可を図り、他大学との差別化を図る。（教学改革政策） 教学改革政策から学生確保の方策へつながるよう全学的に点検し広報資料の作成をする。（令和7年度）
②-2 健康寿命延伸教室の実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCAサイクル） 全年齢を対象とした健康寿命延伸教室を開催しFD委員会で取り上げPDCAサイクルで改善する。 教学改革政策から学生確保の方策へつながるよう上記の内容を広報資料の作成をする。（令和7年度～）
②-3 スマートOKAGAKUアクションの実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCAサイクル） 入学前から在学中、卒業、卒業後まで徹底的にフォローをする本学独自のエンrollmentサポート「スマートOKAGAKUアクション」をFD委員会で取り上げ、PDCAサイクルで改善する。 教学改革政策から学生確保の方策へつながるよう上記の内容を広報資料の作成をする。（令和7年度～） 養成コースに係るよう教学改革政策の内容が学生確保の方策に直結するようにする。
③-1 一般選抜の課題と解決方策の工夫（PDCAサイクル） 管理栄養士養成課程としての価値の向上を図るために、一般選抜の課題と解決方策の工夫を実施する。 価値の向上を図るためには、①数理・データサイエンス・AI教育プログラム応用基礎レベルと②養成コースのPDCAサイクルで改善し卒業後のゴールに力を入れることが求められる。
・域外高等学校卒業生における学生募集対策（都市部など） ③-1 一般選抜の課題と解決方策の工夫を実施することで、域外高等学校卒業生における学生募集につながる。また、都市部からの学生募集は、倉敷市との包括協定の基で実施することが重要である。令和6年度から7年度にかけて、都市部から高梁川流域につながる仕組み倉敷市と共に構築する。
・留学生における学生募集対策 大阪の日本語学校と包括協定を結んだ。 留学生40名を確保できる内容であるが、入口だけでなく卒業後のキャリアをイメージした戦略を実施する。

3-1 人件費依存率80%実現するための方針

3-1-1 岡山学院大学の学生確保戦略

○岡山短期大学

・域内高等学校卒業生における学生募集対策（高梁川流域圏の市町、広島県東部、鳥取県、島根県）
域内高等学校は、高等学校からの信頼・信用が重要であり、前経営改善計画の「信用からはじまる広報」が重要であることは変わらない。「信用からはじまる広報戦略」は下記の通りである。

①おかがく・おかたん魅力づくりと発信戦略

魅力づくり

- ◆ 入試広報戦略会議結果を踏まえたPDCAサイクル
- ◆ 高大接続連携戦略
 - 入学前から輝くためのエンrollmentサポート
 - 信頼につながる高校訪問
- ◆ 地域貢献における戦略（高梁川流域連携事業での貢献）
- ◆ 産学官連携戦略
- ◆ その他

発信法

- ◆ オープンキャンパスの参加者増加につながる発信

- オープンキャンパス内容の質的向上
 - ◇ 新規開拓戦略
 - ◇ リピーター戦略
- ガイダンス業務の質的向上
- HP 更新の質的向上
- SNS 発信業務の質的向上

<短大戦略>

②おかたんみらい園活性化プログラム

- ◆ おかたんみらい園活用プログラムの実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCA サイクルの実施）
- ◆ 高校生（保育者志望）を呼び込む好循環サイクルの計画と実施

③地域に開放したプログラミング教育の実践

- ◆ 株式会社ミマモルメ「プログラボ」の実施

・留学生における学生募集対策

本学は、大阪府に所在する日本語学校 2 校と包括協定を締結し、積極的に留学生を受け入れる体制を整えている。

①おかがく・おかたん魅力づくりと発信戦略

- ①-1 入試広報戦略会議結果を踏まえた PDCA サイクル
- ①-2 高大接続連携戦略
- ①-3 地域貢献における戦略（高梁川流域連携事業での貢献）
- ①-4 産学官連携戦略
- ①-5 その他
- ①-6 オープンキャンパス戦略
 - ①-6-1 新規開拓戦略
 - ①-6-2 リピーター戦略
- ①-7 ガイダンス戦略
- ①-8 ウェブ戦略
 - ①-8-1 HP
 - ①-8-2 SNS

②おかたんみらい園活性化プログラム

- ②-1 おかたんみらい園活用プログラムの実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCA サイクルの実施）
- ②-2 高校生（保育者志望）を呼び込む好循環サイクルの計画と実施

③地域に開放したプログラミング教育の実践

- ③-1 株式会社ミマモルメ「プログラボ」の実施

・留学生における学生募集対策

①-1 入試広報戦略会議結果を踏まえた PDCA サイクル

毎年 1 月もしくは 2 月に入試広報戦略会議を全学的に実施し短大の SWOT 分析をする。学生確保の方策、教学改革政策に反映する。

①-2 高大接続連携戦略

第三者評価の一つとして、学生の学習成果を焦点としたアンケートを実施しているところであるが、それに加えて、高大接続連携校の高校生の行動分析と次年度に向けた対策をする。

①-3 地域貢献における戦略（高梁川流域連携事業での貢献）

高校生と直接関わる高梁川流域連携事業に参画し、共に地域貢献をする体制を整える。

①-4 産学官連携戦略 倉敷市との包括協定の基の保育者養成に係る取組をする。
①-5 その他 ①-1 で抽出した強みをその他に入れて学生確保の方策として注力する。
①-6 オープンキャンパス戦略 入学予定者数分析（オープンキャンパスアンケート結果から分析） ①-6-1 新規開拓戦略 3 年生新規参加者数（ファーストコンタクト数、セカンドコンタクト数、サードコンタクト数、その他）、2 年生新規参加者数（ファーストコンタクト数、セカンドコンタクト数、サードコンタクト数、その他）、1 年生新規参加者数（ファーストコンタクト数、セカンドコンタクト数、サードコンタクト数、その他）から新規開拓戦略をする。 ①-6-2 リピータ戦略 【OC リピータ参加者数/OC 参加者数】からのリピーター比率を計算し入学予定者数分析をする。その際、上記のコンタクトから戦略を組み立てることを念頭におく。
①-7 ガイダンス戦略 ①-6-1、①-6-2 の分析につながるよう、ガイダンス（学校別、分野別、模擬授業）戦略別に組み立てる。具体的には、学生と教職員の距離が近い」が達成できるガイダンスを行う。
①-8 ウェブ戦略 ①-8-1 HP 令和 6 年度中に岡短みらい園、令和 7 年度までに STEAM 教育の理論と実践、プログラミングの内容、さらに、プログラムの LP を取り上げ認知を図る。 ①-8-2 SNS 学生生活がみえるように SNS 広報を行っていく。
②-1 おかたんみらい園活用プログラムの実施状況と課題の発見、解決方策の工夫（PDCA サイクルの実施） 短大 FD 委員会でおかたんみらい園の活用プログラムを PDCA で改善する。 教学改革政策から学生確保の方策につながるよう、広報資料を作成するなど更新性を維持する。
②-2 高校生（保育者志望）を呼び込む好循環サイクルの計画と実施 岡短みらい園の見学などを取り入れ、好循環サイクルを計画し実施する。
③-1 株式会社ミマモルメ「プログラボ」の実施 幼小接続の概念を取り入れた地域貢献のプログラミング教育を実施し、岡山短期大学のブランド価値を高める。 教学改革政策から学生確保の方策につながるよう、実施結果を広報資料に反映させる。

3-1 人件費依存率 80%実現するための方針

3-1-2 岡山短期大学の学生確保戦略

(4) 外部資金の獲得・寄付の充実・遊休資産処分等計画

○外部資金の獲得

数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを実施する上で、情報処理教育センターの改修が不可欠であり外部資金で整備する。また、B 棟のおかたんみらい園においても地域的・社会的ニーズに基づいた情報機器を整備する。

○寄付の充実

卒業生からの寄付金は学生満足度の向上と相関があるため、学生満足度の向上を図ることが重要であると考え。

同窓生からの寄付金は 5 年間で 1 億円を目標に募る。具体的には、記念事業として地域貢献につな

がり同窓生に日ごろの感謝を伝えることができる行事から、同窓生に対し寄付金を募れるようにする。

その他の寄付金は、ふるさと納税を活用した学校法人支援制度を倉敷市と共に実施ができるようにする。具体的には、令和6年度中に骨子案の作成、令和7年度に実施・評価・改善をしていきたい。

3-2 一般寄付金を獲得するための方針

3-2-1 卒業生からの寄付金の獲得状況

3-2-2 同窓生からの寄付金の獲得状況

3-2-3 その他の寄付金の獲得状況

(5) 人事政策と人件費の抑制計画

【人事政策】

本学は、人件費の削減の観点から少数精鋭とし、入試広報を兼務業務として特定の部署を設けておらず、基本的の後手対応になっていた。若干名を採用し入試広報を図るための部署を立ち上げV字回復を図る。

人件費依存率80%実現するための方針における、独自の人事評価システムを導入し人事評価のメリハリ化を図る。

3-1 人件費依存率80%実現するための方針

3-1-3 独自の人事評価システムの導入及び実施状況（人事評価の結果）

【人件費の抑制計画】

人件費の抑制計画は、大学設置基準及び短期大学設置基準等、法令上の必要最低限で運営しているところであるため、これ以上抑制するのは困難である。

人事評価システムを導入し人事評価のメリハリ化を図ることが人件費抑制につながると確信する。

3-1 人件費依存率80%実現するための方針

3-1-3 独自の人事評価システムの導入及び実施状況（抑制に係る数値結果）

(6) 経費抑制計画（人件費を除く）

削減を図る経費は下記の通りである。

広告費

厳しい学生募集の結果より、広告費が膨らんできたので、前年度比2%削減（5ヵ年で広告費1割削減）を目標として削減する。またSNSの活用により広告方法をシフトする。

消耗品費

より安価なところで購入し、支出を抑える。

光熱水費

現在の原油高状況において、電気料金、水道・下水料金等光熱水費の高騰により、節電効果を料金に反映することは非常に困難を極めるが、年間2%減を目標に節電・節水を励行する。

また、イニシャルコストはかかるが、今まで使っていた学内電灯のLED化を進める予定である。

(7) 施設等整備計画

○情報処理教育センターの整備計画

上記のとおり、情報処理教育センターを整備する。令和6年度から令和8年度までに整備をする予定で考えている。

○大学専用施設の整備計画

C棟の臨床栄養学実習室を整備する。具体的には、専門職に必要な情報機器を導入し整える予定である。令和6年度に整備する予定である。

○短大専用施設の整備計画

岡短みらい園を整備する。具体的には、専門職に必要な情報機器を導入し整える予定である。令和6年度に整備する予定である。

○その他の整備計画

学内電灯のLED化を図る予定である。その他、トイレの改修など、改修に必要なところがあったら、整備計画に盛り込み改善する。

(8)借入金等の返済計画

借入金はないので、返済計画を作成しない。

5. 組織運営体制

(1) 理事長・理事会等の役割・責任

(1) 理事長・理事会等の役割・責任とプロジェクトチームの設置等による経営改善のための検討・実施体制

理事長・理事会・監事・評議員会

理事長は学校法人の公共性を高め、経営改善を先導していくリーダーシップと経営責任を果たす。

理事会は理事長の経営判断や執行を補佐する最高意思決定機関である。本計画の1～2年の短い期間において大学・短大における入学定員充足率100%の達成、寄付金（毎年2000万円ずつ）の確保することを掲げている。令和6年度の募集状況や令和5年度までの決算状況、急速な少子化や社会情勢の変容などを考慮すると、これを達成するためには相当の努力を要する。

本計画に挙げられている教学改革、人事政策、寄付募集等に係る多数の取組を実行・管理するためには、少なくとも組織における体制整備が必須となる。令和7年度に予定されている新体制のもと、これらの取組を実行・管理させる組織体制の構築についても、本計画に盛り込まれる必要がある。組織体制（理事会・評議員会・プロジェクトチーム等）の構築は、私学法改正に合わせて令和6年度中に構築する。

監事は、事業監査及び会計監査、監査報告書を作成し、理事会及び評議員会へ提出する。また、理事長及び理事会の業務執行に対する監査機能を高める。

評議員会は、予算及び事業計画の諮問、決算報告、事業の実績報告を諮問する。

私学法改正に則った形で理事会・評議員会の構成を見直す。

毎年2名の監事が文部科学省の監事研修会に出席し、ガバナンスの強化について理事長に報告している。監事は、財務関連のみならず、理事会・評議員会に毎回同席し、審議内容について意見を出している。また、公認会計士との連携も図るよう、財務状況について公認会計士との意見交換も実施している。

財務情報等の公開

本学が財務情報の公開を通じて、社会に対して説明責任を果たし、ステークホルダーの理解と協力を得られるようにしていく観点から、財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書を各事務所に備え付け、閲覧に供するとともにWEBで公開している。

大学の経営倫理

本学は、利益に繋がる効率性・競争性の追求のみでなく、倫理に関わる人間性・社会性とのバランスが取れた経営を実践し、理事長の経営責任と監事の監査機能の強化により、経営問題の回避やリスク・マネジメント（危機回避）を強化する。

本学の社会的責任

高い公共性と大きな社会的責任が求められる本学の理事会及び教職員は、受入れた学生に対し質の高い教育を行い、破綻させることなく学生を教育して卒業させることが最も重要な社会的責務であり、万が一にも学生の在学中に経営破綻に陥るようなことはあってはならないものであることを十分に認識する。また、破綻状態に陥ると判断した場合には、早急に不採算部門等の学生募集を停止し、当該部門の廃止等への準備を進める。

私学経営・教育内容等の説明責任

教育課程と学生サービスに対する学生ニーズの評価、教育目的の設定、教員組織・施設設備・財務の配分、そして教育の実践について明確にする。また、教育目的の達成については、証拠を蒐集するとともに証拠の解釈をし、適正に教育・学習を機能アップさせ、制度の決定作成過程、予算計画を直視した自己点検評価の結果を報告する。

(2) 経営改善のための検討・実施体制今後の検討・実施体制

(プロジェクトチームの設置等)

委員会・プロジェクトチームの設置と運用

この経営改善計画を実施し、その結果の評価を行い、更には見直しを行うことを目的に、本学の経営、教学、事務の各部門を掌握できる者でプロジェクトチームを組織する。令和7年度より学長を交代するため、プロジェクトチームを再構成する。その際、学外有識者を採用しプロジェクトチームの活性化を図る。また、M&Aの結果から理事長職を親組織に依頼することも考えられる。

【令和6年度】

理事長・学長 原田博史

副理事長・副学長 原田俊孝

幼児教育学科教授・学内理事・主任教授

尾崎聡

事務部長代理・経理課長・学内理事

作永大樹

事務部・学務課長 川口貴子

事務部・図書館 有松真伊

【令和7年度】

学園長 原田博史

理事長・学長 原田俊孝

幼児教育学科教授・学内理事・主任教授

尾崎聡

事務部長代理・経理課長・学内理事

作永大樹

大阪公立大学教授 学外有識者 近勝彦

事務部・学務課長 川口貴子

事務部・図書館 有松真伊

プロジェクトチームの発足

経営改善計画を実行するためのPDCAサイクルで分析

現状分析・問題点の明確化

建学の精神及び教育理念、教育の目的、目標の再認識

内部環境の分析

●経営資源の評価、分析

●本学の強み、弱みの分析

●ヒト、モノ、カネ、ギジュツ、ジョウハウ等の分析

●学生の学習成果の定量・定性的評価の分析

●経営改善計画の実行に伴う、課題の発見、創造と把握

外部環境の分析

●教育界の分析・動向

●他大学との競争の分析

●卒業生、採用企業による外部評価分析

●産学官連携

教学の充実と経営

経営基盤の強化と教学の充実は車の両輪であり、学生にとって魅力的な教育を提供するという教学の充実、経営基盤の強化に直結する。経営者と教職員が一丸となって、教育内容を不断に見直し、

新しい時代のニーズに応えた人材を育成する学部・学科へと変容を図る。

また、私学法改正に合わせ令和7年度より原田博史理事長・学長から原田俊孝副理事長・副学長に学長職を交代し、理事会や評議員会の機能の強化を図る。原田博史理事長・学長は、学園長として令和7年度以降も学校運営に注力する。

6. リスクの把握

(1) 経営を維持するために最低限確保しなくてはならない財務上の数値
リスクシナリオ（経営改善計画どおりに進まない場合の対応方針）の策定

急激に少子化が進んでいる現在では、学生数の増加による収入増を中心とした改善計画では成果を上げることが困難と予測される。したがって、経営者は学校の置かれた状況や環境、更には社会情勢などを踏まえた計画を策定することが求められるが、一方で計画どおりに改善が進まなかったことによって生じる「リスク」に即応できるよう、状況に応じた収支改善策の策定、運営規模の適正化といった対応方針、いわゆる「リスクシナリオ」をあらかじめ策定することも求められている。

本計画の財務目標は、「令和10年度に減価償却額補正後の経常収支差額を黒字化」である。減価償却額補正後の経常収支差額をリスクシナリオの判断基準としてリスクシナリオを策定する。

(2) (1)の数値より悪化した場合に見込む経営判断

判断基準（減価償却額補正後の経常収支差額） 中間（令和8年度） 単位：千円		リスクシナリオ
S	-10,000 以上	現行の経営改善計画を更なる推進。 新学部新学科構想（大学：デジタルメディア学科、短大：キャリア実践総合学科）を推進。
A	-50,000 未満	現行の経営改善計画を推進。 新学部新学科構想（大学：デジタルメディア学科、短大：キャリア実践総合学科）を推進。
B	-66,600 未満	現行の経営改善計画で定める以上の経費支出削減策を実施。 外部機関への相談。
C	-86,000 未満	倉敷市に相談から短大の募集停止
D	-100,000 未満	大学・短大の募集停止、法人閉鎖

判断基準 A、B、C の場合は M&A 計画を並行に実施する。

現段階（令和6年8月末現在）で M&A の3つの方法から最適解を検討し実施する。はじめに、中国銀行が提携している山田コンサルティンググループ株式会社からの M&A である。9月10日に第1回打ち合わせをする予定である。次に、私学事業団の合併等紹介業務を利用した M&A である。9月19日に第1回打ち合わせをする予定である。さらに、学外有識者紹介の M&A もある。7月に M&A 計画は流れたが、先方より再度打ち合わせをしたいという意見もある。

M&A の結果については、合法的に進行できるよう私学事業団と連携を取りながら確実に点検・評価を図る。

9. 資産の所有状況（土地及び建物の面積、所在地、路線価図を含む）

倉敷キャンパス

岡山県倉敷市有城字雲山 380 番ほか 218 筆 68,304.63 m² 不動産鑑定士評価額 1,060,000 千円

鴨方校地

岡山県浅口市鴨方町六条院 1971 番ほか 14 筆 14,572.26 m² 不動産鑑定士評価額 79,900 千円

10. 借入金以外の負債状況（未払金、預り金等の状況）

外部負債状況において問題ないとする。

(3) その他

令和6年度FD・SDワークショップ

日 時： 令和6年12月24日9:10～
場 所： 本学情報処理教育センター D302

詳細日程：

内 容	
岡山学院大学・岡山短期大学事務部SD委員会報告 (1) SD委員会の実施報告 (2) 救命救急に係る講習の実施状況について (3) 事務部の業務改善に係る教職協働について (4) 令和7年度オープンキャンパス戦略及びガイダンス戦略の準備について	
岡山短期大学FD委員会 報告 (15分の質疑応答含む) (1) FD委員会報告 (2) おかたんみらい園の強化を図るためのPDCAサイクル (3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの強化を図るためのPD Aサイクル C (4) STEAM教育の理論と実践とプログラミング教育を図るためのPDC サイクル A (5) 学生の学習成果の獲得に向けた教員相互による授業評価の実施について (6) 進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援について (7) 外部評価の実施について (8) Society 5.0 保育者養成コース及び公務員養成コースの実施状況について (9) 学生の学習成果及び3つの方針のPDCAサイクルについて	
岡山学院大学FD委員会 報告 (15分の質疑応答含む) (1) 岡山学院大学認証評価の実施報告 (2) 経営改善計画(令和6年度～10年度)のPDCAサイクルについて (3) 学生の学習成果の獲得に向けた相互による授業評価の実施について (4) 外部評価の実施について (5) 基準Ⅱに係る合理的配慮の実施について (6) 授業改善の実施について-シャトルカードの有効的使用法及び様式の課題及び解決策について- (7) 卒業研究Ⅰ・Ⅱの実施について (8) スマート OKAGAKU アクションの強化を図るためのPDCAサイクル (9) 学生の学習成果及び3つの方針の点検結果について	

令和6年度外部研究費の獲得

令和6年度学術研究助成事業助成金

研究代表者

- ・研究種目：基盤研究(C)／令和6年度～令和8年度
- ・研究課題名：「ビタミンDによる抗炎症機構の解明および炎症性腸疾患との関連」
- ・研究代表者：岡田只士
- ・研究分担者：安田佳織（富山県立大学）、川越文裕（東京理科大学）
- ・交付決定額（3年総計）：4,680,000円【直接経費：3,600,000円、間接経費：1,080,000円】
- ・令和6年度：1,430,000円【直接経費：110万円、間接経費：33万円】

- ・研究種目：基盤研究(C)／令和4年度～令和6年度
- ・研究課題名：「動物園等が配信する動画を含むコンテンツをバリアフリー化する障害児支援教材の開発」

- ・研究代表者：山口雪子
- ・研究分担者：松本朱実（社会構想大学院大学）
- ・交付決定額（3年総計）：4,160,000 円【直接経費：3,200,000 円、間接経費：960,000 円】
- ・令和4年度：1,560,000 円【直接経費：120 万円、間接経費：36 万円】
- ・令和5年度：1,430,000 円【直接経費：110 万円、間接経費：33 万円】
- ・令和6年度：1,170,000 円【直接経費：90 万円、間接経費：27 万円】

研究分担者

- ・研究種目：基盤研究(C)／令和4年度～令和7年度
- ・研究課題名：「腸内細菌叢の改善による反復性膀胱炎の新たな予防法と治療法の開発」
- ・研究代表者：石井亜矢乃（岡山大学）
- ・研究分担者：狩山玲子
- ・令和4年度：65,000 円【直接経費：5 万円、間接経費：1 万 5 千円】
- ・令和5年度：104,000 円【直接経費：8 万円、間接経費：2 万 4 千円】
- ・令和6年度：130,000 円【直接経費：10 万円、間接経費：3 万円】

- ・研究種目：基盤研究(C)／令和5年度～令和7年度
- ・研究課題名：「生物学的半減期増長ビタミンD誘導体合成と疾患モデル動物でのホルモン様作用増強解析」
- ・研究代表者：橘高敦史（帝京大学）
- ・研究分担者：岡田只士
- ・令和5年度：195,000 円【直接経費：15 万円、間接経費：4 万 5 千円】
- ・令和6年度：195,000 円【直接経費：15 万円、間接経費：4 万 5 千円】

令和6年度奨学寄付金

令和6年度学術研究助成金

公益財団法人ウエスコ学術振興財団

- ・研究題目「新規ビタミンD欠乏マウスモデル作成の試みと、それを用いたビタミンD欠乏と健康の関連解析」
- ・研究代表者：岡田只士
- ・寄付金額：250,000 円

- ・研究題目「島嶼部における介護予防プログラムの開発」
- ・研究代表者：平野聡
- ・寄付金額：250,000 円

令和6年度外部資金の獲得

令和6年度岡山県補助金

- ・令和6年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業補助金
- ・研究代表者：平野聡
- ・補助金額：180,000 円

- ・おかやま子育てカレッジ地域貢献事業費補助金
- 補助金額：91,000 円

3 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較（5 か年間）

	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
固定資産	4,091,797,176	3,902,832,979	3,655,501,907	3,412,453,539	3,144,370,446
流動資産	169,715,849	92,651,525	109,977,186	96,221,548	111,557,592
資産の部合計	4,261,513,025	3,995,484,504	3,765,479,093	3,508,675,087	3,255,928,038
固定負債	149,610,176	149,356,046	137,451,562	129,256,423	114,637,469
流動負債	106,702,715	58,733,707	56,173,283	44,531,022	75,784,816
負債の部合計	256,312,891	208,089,753	193,624,845	173,787,445	190,422,285
基本金	7,435,685,560	7,438,937,202	7,445,181,050	7,449,576,416	7,485,371,637
繰越収支差額	△ 3,430,485,426	△ 3,651,542,451	△ 3,873,326,802	△ 4,114,688,774	△ 4,419,865,884
純資産の部合計	4,005,200,134	3,787,394,751	3,571,854,248	3,334,887,642	3,065,505,753
負債及び純資産 の部合計	4,261,513,025	3,995,484,504	3,765,479,093	3,508,675,087	3,255,928,038

イ) 財務比率の経年比較

・ 運用資産余裕比率、流動比率、総負債比率、前受金保有率、基本金比率、積立率等

貸借対照表関係比率	医療法人 以外大学 法人 全国平均	短大法人 全国平均	評	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
固定資産構成比率	825%	80.9%	～	96.0%	97.7%	97.1%	97.2%	96.6%
有形固定資産構成比率				76.1%	79.1%	81.6%	85.1%	90.0%
特定資産構成比率				19.8%	18.5%	15.4%	12.1%	6.4%
流動資産構成比率	17.5%	19.1%	～	4.0%	2.3%	2.9%	2.7%	3.4%
固定負債構成比率	8.6%	9.4%	▼	3.5%	3.7%	3.6%	3.7%	3.5%
流動負債構成比率	6.5%	6.5%	▼	2.5%	1.5%	1.5%	1.3%	2.3%
内部留保資産比率				17.5%	15.5%	12.9%	9.7%	3.0%
運用資産余裕比率				196.9%	167.7%	133.7%	108.6%	57.1%
純資産構成比率				94.0%	94.8%	94.9%	95.0%	94.2%
繰越収支差額構成比率				△80.5%	△91.4%	△102.9%	△117.3%	△135.7%
固定比率	97.2%	95.3%	▼	102.2%	103.1%	102.4%	102.3%	102.5%
固定長期適合率	88.3%	85.5%	▼	98.5%	99.1%	98.6%	98.5%	98.9%
流動比率	269.7%	292.3%	△	158.9%	157.6%	196.4%	213.3%	147.4%
総負債比率	15.1%	16.0%	▼	6.0%	5.2%	5.2%	5.0%	5.8%
負債比率	17.8%	19.0%	▼	6.4%	5.5%	5.4%	5.2%	6.2%
前受金保有率	326.6%	430.1%	△	385.4%	247.2%	348.3%	357.7%	520.0%
退職給与引当特定資産保有率				100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
基本金比率	95.8%	94.1%	△	100.0%	99.9%	99.9%	100.0%	100.0%
減価償却比率	35.5%	36.6%	～	63.0%	64.4%	65.7%	67.1%	68.1%
積立率				23.3%	18.9%	15.2%	11.3%	6.2%

医療法人以外大学法人全国平均及び短大法人全国平均は平成 14 年度版日本私立学校振興・共済事業団の平成 13 年度の値で、同様に評は「 ▼ 低い値が良い △ 高い値がよい ～ どちらとも言えない」を示している。

平成 26 年度の関係比率の平成 27 年度からの関係比率計算式

固定資産構成比率	固定資産÷総資産	固定比率	固定資産÷純資産
有形固定資産構成比率	有形固定資産÷総資産	固定長期適合率	固定資産÷（純資産＋固定負債）
特定資産構成比率	特定資産÷総資産	流動比率	流動資産÷流動負債
流動資産構成比率	流動資産÷総資産	総負債比率	総負債÷総資産
固定負債構成比率	固定負債÷（総負債＋純資産）	負債比率	総負債÷純資産
流動負債構成比率	流動負債÷（総負債＋純資産）	前受金保有率	現金預金÷前受金
内部留保資産比率	（運用資産－総負債）÷総資産	退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産÷退職給与引当金
運用資産余裕比率	（運用資産－外部負債）÷経常支出	基本金比率	基本金÷基本金要組入額
純資産構成比率	純資産÷（総負債＋純資産）	減価償却比率	減価償却累計額（図書を除く）÷減価償却資産取得価額（図書を除く）
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額÷（総負債＋純資産）	積立率	運用資産÷要積立額

運用資産→現金預金＋特定資産＋有価証券

要積立額→減価償却累計額＋退職給与引当金＋2，3号基本金

貸借対照表関係比率の説明（日本私立学校振興・共済事業団から抜粋）

固定資産構成比率	固定資産の総資産に占める構成割合で、流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標である。固定資産は施設設備等の有形固定資産と各種引当特定資産を内容とする特定資産を中心に構成されている。学校法人が行う教育研究事業には多額の設備投資が必要となるため、一般的にはこの比率が高くなるのが学校法人の財務的な特徴である。この比率が学校法人全体の平均に比して特に高い場合、資産の固定化が進み流動性が乏しくなっていると評価することができる。しかし固定資産に占める特定資産の比率が高い学校法人においては必ずしもこの評価は適切ではないため、資産の固定化を測る比率として、有形固定資産に焦点をあてた「有形固定資産構成比率」を利用することも有効である。なお、固定資産構成比率は、流動資産構成比率と表裏をなす関係にある。
有形固定資産構成比率	有形固定資産の総資産に占める構成割合で、土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているかを評価する指標である。学校法人では教育研究事業に多額の施設設備投資を必要とするため、この比率が高くなるのが財務的な特徴であるが、学校規模に比して設備投資が過剰となる場合は財政を逼迫させる要因ともなるため、注意が必要である。
特定資産構成比率	特定資産の総資産に占める構成割合で、各種引当特定資産などの長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況を評価する指標である。一般的には、この比率が高い場合は中長期的な財政支出に対する備えが充実しており、計画的な学校法人経営に資するといえる。この比率が低い場合には主に二通りの評価が考えられる。一つは固定・流動を合わせた金融資産が少ないため特定資産の形成が困難な場合であり、資金の目的化以前に財政基盤の脆弱さ、資金の流動性の問題が懸念される。もう一つは金融資産は少なからず保有しているが特定資産を形成していない場合で、この場合は直ちに財政基盤が脆弱であるとはいえない。しかし近年では中長期的な視点にたった経営計画の策定と、経営計画の下支えとなる特定資産の重要性が高まっており、また保護者をはじめとした利害関係者への説明責任の観点からも計画的な特定資産形成が望ましい。

流動資産構成比率	流動資産の総資産に占める構成割合で、固定資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標となる。流動資産は現金預金と短期有価証券のほか、未収入金などで構成されている。一般的にこの比率が高い場合、現金化が可能な資産の割合が大きく、資金流動性に富んでいると評価できる。逆に著しく低い場合は、資金流動性に欠け、資金繰りが苦しい状況にあると評価できる。この比率が低い場合であっても、低金利下での有利な運用条件を求めて長期預金や長期有価証券を保有している場合や、将来的な財政基盤の安定化のために金融資産を目的化して特定資産化している場合には、必ずしも流動性に乏しいとはいえないため、特定資産や固定資産の有価証券の保有状況も確認して評価を行う必要がある。なお、流動資産構成比率は固定資産構成比率と表裏をなす関係にある。
固定負債構成比率	固定負債の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、主に長期的な債務の状況の評価するものであり、流動負債構成比率とともに負債構成のバランスと比重を評価する指標である。固定負債は主に長期借入金、学校債、退職給与引当金等で構成されており、これらは長期間にわたり償還あるいは支払い義務を負う債務である。学校の施設設備の拡充や更新の際に、長期借入金を導入した方が財政計画上有利となる場合等もあり、長期借入金が多いことが直ちにネガティブな評価とはならないが、学校法人の施設整備計画や手元資金の状況に比してこの比率が過度に高い場合には、経営上の懸念材料となる点に留意が必要である。
流動負債構成比率	流動負債の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、主に短期的な債務の比重を評価するものであり、固定負債構成比率とともに負債構成のバランスと比重を評価する指標である。学校法人の財政の安定性を確保するためには、この比率が低いほうが好ましいと評価できる。しかし流動負債のうち、前受金は主として翌年度入学生の納付金がその内容であり、短期借入金とは性格を異にするものであるため、流動負債を分析する上では前受金の状況にも留意する必要がある。
内部留保資産比率	特定資産（各種引当資産）と有価証券（固定資産および流動資産）と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合である。この比率がプラスとなる場合は運用資産で総負債をすべて充当することができ、結果的に有形固定資産が自己資金で調達されていることを意味しており、プラス幅が大きいほど運用資産の蓄積度が大きいと評価できる。一方、この比率がマイナスとなる場合、運用資産より総負債が上回っていることを意味しており、財政上の余裕度が少ないことを表すこととなる。
運用資産余裕比率	「運用資産（特定資産・有価証券・現金預金の換金可能なもの）」から「外部負債（借入金・学校債・未払金等の外部に返済を迫られるもの）」を差し引いた金額が、事業活動収支計算書上の経常支出の何倍にあたるかを示す比率であり、学校法人の一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているかを表す指標である。この比率が1.0を超えている場合は、すなわち一年間の学校法人の経常的な支出を賄えるだけの資金を保有していることを示し、一般的にはこの比率が高いほど運用資産の蓄積が良好であるといえる。なお、この比率の単位は（年）である。
純資産構成比率	純資産の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、学校法人の資金の調達源泉を分析する上で、最も概括的で重要な指標である。この比率が高いほど財政的には安定しており、逆に50%を下回る場合は他人資金が自己資金を上回っていることを示している。
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合である。繰越収支差額とは、過去の会計年度の事業活動収入超過額又は支出超過額の累計であり、一般的には支出超過（累積赤字）であるよりも収入超過（累積黒字）であることが理想的である。しかし、単年度の事業活動収支を分析する場合と同様に、事業活動収支差額は各年度の基本金への組入れ状況によって左右される場合もあるため、この比率のみで分析した場合、一面的な評価とな

	る虞がある。この比率で評価を行う場合は基本金の内訳とその構成比率と併せて検討する必要がある。
固定比率	固定資産の純資産に対する割合で、土地・建物・施設等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか、すなわち資金の調達源泉とその使途とを対比させる比率である。固定資産は学校法人の教育研究事業にとって必要不可欠であり、永続的にこれを維持・更新していく必要がある。固定資産に投下した資金の回収は長期間にわたるため、本来投下資金は返済する必要のない自己資金を充てることが望ましい。しかし実際に大規模設備投資を行う際は外部資金を導入する場合もあるため、この比率が100%を超えることは少なくない。このような場合、固定長期適合率も利用して判断することが有効である。なお、固定資産に占める有形固定資産と特定資産の構成比にも留意が必要である。
固定長期適合率	固定資産の、純資産と固定負債の合計値である長期資金に対する割合で、固定比率を補完する役割を担う比率である。固定資産の取得を行う場合、長期間活用できる安定した資金として自己資金のほか短期的に返済を迫られない長期借入金でこれを賄うべきであるという原則に対してどの程度適合しているかを示している。この比率は100%以下で低いほど理想的とされる。100%を超えた場合は、固定資産の調達源泉に短期借入金等の流動負債を導入していると解することができ、財政の安定性に欠け、長期的にみて不安があることを示している。固定比率が100%以上の法人にあっては、この固定長期適合率を併用するとともに固定資産の内容に注意して分析することが望ましい。
流動比率	流動負債に対する流動資産の割合である。一年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現金預金又は一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払い能力を判断する重要な指標の一つである。一般に金融機関等では、200%以上であれば優良とみなしており、100%を切っている場合には、流動負債を固定資産に投下していることが多く、資金繰りに窮していると見られる。ただし、学校法人にあっては、流動負債には外部負債とは性格を異にする前受金の比重が大きいことや、流動資産には企業のように多額の「棚卸資産」がなく、ほとんど当座に必要な現金預金であること、さらに、資金運用の点から、長期有価証券へ運用替えしている場合もあり、また、将来に備えて引当特定資産等に資金を留保している場合もあるため、必ずしもこの比率が低くなると資金繰りに窮しているとは限らないので留意されたい。
総負債比率	固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資金の比重を評価する極めて重要な比率である。この比率は一般的に低いほど望ましく、50%を超えると負債総額が純資産を上回ることを示し、さらに100%を超えると負債総額が資産総額を上回る状態、いわゆる債務超過であることを示す。
負債比率	他人資金と自己資金との割合で、他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないかを測る比率であり、100%以下で低い方が望ましい。この比率は総負債比率、純資産構成比率と相互に関連しているが、これらの比率よりも顕著に差を把握することができる。
前受金保有率	前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率であり、100%を超えることが一般的とされている。この比率が100%を下回っている場合、主に2つの要因が考えられる。1つには前受金として収受した資金を現金預金以外の形で保有し、短期的な運用を行っている場合であり、この場合は有価証券の状況を確認することで前もって収受している翌年度分の納付金が保有されていることを確認することとなる。もう1つは、翌年度分の納付金として収受した前受金に前年度のうちから手を付けている場合であり、この状況は資金繰りに苦慮している状態

	を端的に表しているものと見るができる。なお、入学前に前受金を収受していない学校ではこの値が高くなる場合があるため、入学前年度における授業料等の納付条件等も確認する必要がある。
退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当金と特定資産中の退職給与引当特定資産の充足関係を示す比率で、将来的な支払債務である退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているかを判断するものであり、一般的には高い方が望ましい。ただし、学校法人によって退職給与引当率に差異がある場合や、特定資産を形成せず現金預金・有価証券等の形で保有している場合もあり、この比率が低い場合は退職給与引当金の財源をどのように確保しているか、学校法人の状況を念頭に置いて評価する必要がある。
基本金比率	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合である。この比率は100%が上限であり、100%に近いほど未組入額が少ないことを示している。未組入額があることはすなわち借入金又は未払金をもって基本金組入対象資産を取得していることを意味するため、100%に近いことが望ましい。しかし、仮に100%である場合でも繰越事業活動収支差額において支出超過となっている場合、累積した支出超過が基本金を毀損していることとなるため、繰越事業活動収支差額の状況も併せて評価する必要がある。
減価償却比率	減価償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合である。建物・設備等の有形固定資産を中心とする減価償却資産は、耐用年数に応じて減価償却されるが、固定資産の取得価額と未償却残高との差額である償却累計額が、取得価額に対してどの程度を占めているかを測る比率である。資産の取得年次が古いほど、又は耐用年数を短期間に設定しているほどこの比率は高くなる。なお、設立から間もない学校法人では固定資産の償却が開始したばかりであるため、特に低い値となる。
積立率	学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。この比率では、長期的に必要となる資金需要の典型的なものとして、施設設備の取替更新と退職金支払に焦点をあてている。その一方で運用資産の内容は、学校法人ごとに特定資産の用途の指定状況が一様ではないことから、換金可能な金融資産、すなわち現金預金・有価証券（固定資産および流動資産）・特定資産の合計額と幅広く捉えている。そのため算定式の分子・分母に用途の異なる要素が混在することとなるが、ここでは学校法人全体の財政状況の全体的な把握を主眼に置いており、個別目的に対応した資産の保有状況を測るものではない。一般的には比率は高い方が望ましいが、例えば学校法人の将来計画において部門の規模縮小や廃止等が予定されている場合にはその分の施設設備の取替更新等が不要となるため、算定式から不要分にかかる要素を除外して試算してみる等、この算定式から得られる結果のみに捉われず各学校法人の状況に応じた試算を併用することも比率の活用の上では重要である。

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
学生生徒等納付金収入	174,305,090	191,975,139	190,305,671	156,676,080	137,281,929
手数料収入	2,822,600	2,635,700	2,093,100	1,775,400	1,220,200
寄付金収入	12,497,252	12,336,644	6,857,755	6,588,044	6,468,444
補助金収入	39,814,700	54,701,000	70,910,700	60,391,400	42,136,000
資産売却収入	0	1,859,504	0	0	0
付随事業・収益事業収入	583,900	254,500	168,300	179,000	91,000
受取利息・配当金収入	407,908	69,840	146,863	0	0
雑収入	15,826,135	7,835,844	12,412,233	3,607,517	34,381,642
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	40,927,000	36,496,500	29,079,000	25,590,000	15,323,500
その他の収入	243,003,763	113,987,749	164,162,995	165,740,745	216,295,940
資金収入調整勘定	△ 46,535,100	△ 43,362,000	△ 45,524,150	△ 30,795,750	△ 57,508,900
前年度繰越支払資金	107,167,952	158,029,487	88,614,180	100,540,974	93,064,263
収入の部合計	590,821,200	536,819,907	519,226,647	490,293,410	488,754,018

支出の部	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
人件費支出	247,794,781	229,557,022	231,771,043	219,893,156	250,609,679
教育研究経費支出	101,714,367	105,183,355	111,161,600	93,334,125	102,604,050
管理経費支出	62,207,712	62,637,953	67,240,301	67,903,125	58,807,783
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	0	5,198,820	520,300	925,100	0
設備関係支出	3,549,470	3,792,888	9,869,186	4,785,196	37,952,274
資産運用支出	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
その他の支出	35,592,215	57,315,849	13,827,741	20,839,909	12,814,921
資金支出調整勘定	△ 19,066,832	△ 16,480,160	△ 16,704,498	△ 11,451,464	△ 53,281,261
翌年度繰越支払資金	158,029,487	88,614,180	100,540,974	93,064,263	78,246,572
支出の部合計	590,821,200	536,819,907	519,226,647	490,293,410	488,754,018

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科目	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	242,493,902	266,657,012	279,635,629	229,217,441	221,579,215
教育活動資金支出計	411,716,860	397,378,330	410,172,944	381,130,406	412,021,512
差引	△ 169,222,958	△ 130,721,318	△ 130,537,315	△ 151,912,965	△ 190,442,297
調整勘定等	5,336,232	△3,516,275	△ 9,846,136	△ 2,430,975	1,709,173
教育活動資金収支差額	△ 163,886,726	△ 134,237,593	△ 140,383,451	△ 154,343,940	△ 188,733,124
施設整備等活動による資金収支					

施設整備等活動資金 収入計	150,000,000	101,859,504	150,000,000	150,000,000	200,000,000
施設整備等活動資金 支出計	3,549,470	8,991,708	10,389,486	5,710,296	37,952,274
差引	146,450,530	92,867,796	139,610,514	144,289,704	162,047,726
調整勘定等	21,248,137	3,725,443	△ 1,547,756	△ 1,450,561	△1,441,387
施設整備等活動資金 収支差額	167,698,667	96,593,239	138,062,758	142,839,143	160,606,339
小計（教育活動資金収 支差額＋施設整備等活 動資金収支差額）	3,811,941	△ 37,644,354	△ 2,320,693	△ 11,504,797	△ 28,126,785
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収 入計	48,756,901	7,099,804	14,986,988	7,859,795	14,579,190
その他の活動資金支 出計	1,000,000	39,062,157	1,000,000	3,596,927	1,114,083
差引	47,756,901	△ 31,962,353	13,986,988	4,262,868	13,465,107
調整勘定等	△ 707,307	191,400	260,499	△ 234,782	△156,013
その他の活動資金収 支差額	47,049,594	△ 31,770,953	14,247,487	4,028,086	13,309,094
支払資金の増減額（小 計＋その他の活動資金 収支差額）	50,861,535	△ 69,415,307	11,926,794	△ 7,476,711	△ 14,817,691
前年度繰越支払資金	107,167,952	158,029,487	88,614,180	100,540,974	93,064,263
翌年度繰越支払資金	158,029,487	88,614,180	100,540,974	93,064,263	78,246,572

ウ) 財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

関係比率	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
教育活動資金収支差額比率	△67.8%	△50.2%	△50.0%	△67.2%	△85.1%

教育活動資金収支差額比率…教育活動資金収支差額÷教育活動資金収入計

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

科目	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
教育活動収支	事業活動収入の部				
	学生生徒等納付金	174,305,090	191,975,139	190,305,671	156,676,080
	手数料	2,822,600	2,635,700	2,093,100	1,775,400
	寄付金	12,497,252	12,336,644	6,857,755	6,588,044
	経常費等補助金	39,814,700	54,701,000	70,910,700	60,391,400
	付随事業収入	583,900	254,500	168,300	179,000
	雑収入	17,289,113	7,702,178	19,652,903	10,464,272
	教育活動収入計	247,312,655	269,605,161	289,988,429	236,074,196
	事業活動支出の部				
	人件費	247,794,781	229,557,022	231,771,043	219,893,156

	教育研究経費	185,800,316	189,194,005	196,502,143	176,492,810	185,016,989
	管理経費	74,041,064	73,209,001	77,798,195	78,079,491	68,829,342
	徴収不能額等	0	0	1,146,700	0	0
	教育活動支出計	507,636,161	491,960,028	507,218,081	474,465,457	504,456,010
	教育活動収支差額	△ 260,323,506	△222,354,867	△ 217,229,652	△ 238,391,261	△269,297,605
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	407,908	69,840	146,863	0	0
	その他の教育活動外収入	3,355,775	3,081,815	3,112,130	0	0
	教育活動外収入計	3,763,683	3,151,655	3,258,993	0	0
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	3,763,683	3,151,655	3,258,993	0	0
	経常収支差額	△ 256,559,823	△219,203,212	△ 213,970,659	△ 238,391,261	△269,297,605
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	1,259,504	0	0	0
	その他の特別収入	306,146	737,562	566,029	1,489,459	40,350
	特別収入計	306,146	1,997,066	566,029	1,489,459	40,350
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	219,193	599,237	2,135,873	64,804	124,634
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	219,193	599,237	2,135,873	64,804	124,634
	特別収支差額	86,953	1,397,829	△ 1,569,844	1,424,655	△84,284
	基本金組入前当年度収支差額	△ 256,472,870	△217,805,383	△ 215,540,503	△ 236,966,606	△ 269,381,889
	基本金組入額合計	△ 3,611,525	△3,251,642	△ 6,243,848	△4,395,366	△35,795,221
	当年度収支差額	△ 260,084,395	△221,057,025	△ 221,784,351	△241,361,972	△305,177,110
	前年度繰越収支差額	△ 3,170,401,031	△ 3,430,485,426	△ 3,651,542,451	△ 3,873,326,802	△ 4,114,688,774
	基本金取崩額	0	0	0	0	0
	翌年度繰越収支差額	△ 3,430,485,426	△ 3,651,542,451	△ 3,873,326,802	△ 4,114,688,774	△ 4,419,865,884

(参考)

事業活動収入計	251,382,484	274,753,882	293,813,451	237,563,655	235,198,755
事業活動支出計	507,855,354	492,559,265	509,353,954	474,530,261	504,580,644

イ)財務比率の経年比較

・人件費比率、教育研究経費比率、管理経費比率、事業活動収支差額比率、学生生徒等納付金比率、経常収支差額比率

事業活動収支計算書 関係比率	医療法人以外 大学法人 全国平均	短大法人 全国平均	評	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
人件費比率	51.7%	63.0%	▼	98.8%	84.2%	79.2%	93.2%	106.8%
人件費依存率	69.4%	99.2%	▼	142.5%	119.8%	122.1%	140.1%	183.2%

教育研究経費比率	25.6%	21.9%	△	74.1%	69.2%	67.2%	74.6%	78.7%
管理経費比率	7.5%	9.1%	▼	29.5%	26.7%	26.6%	33.1%	29.4%
借入金等利息比率	0.7%	1.0%	▼	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
事業活動収支差額比率				△102.0%	△79.3%	△73.5%	△99.6%	△114.5%
基本金組入後収支比率				204.8%	181.3%	176.7%	203.9%	253.8%
学生生徒等納付金比率	74.5%	63.5%	～	69.3%	70.3%	64.8%	66.5%	58.3%
寄付金比率	2.8%	2.4%	△	5.2%	4.7%	2.4%	3.4%	3.0%
経常寄付金比率				4.8%	4.4%	2.4%	3.0%	2.6%
補助金比率	12.5%	23.8%	△	15.9%	20.0%	24.1%	25.2%	17.9%
経常補助金比率				15.9%	20.1%	24.2%	25.4%	17.9%
基本金組入率	16.0%	12.1%	△	1.6%	1.1%	2.0%	1.7%	15.3%
減価償却額比率	11.1%	9.7%	～	18.9%	19.3%	18.9%	19.6%	18.3%
経常収支差額比率				△102.4%	△80.2%	△73.0%	△100.8%	△114.5%
教育活動収支差額比率				△105.3%	△82.2%	△74.8%	△100.8%	△114.5%

医療法人以外大学法人全国平均及び短大法人全国平均は平成14年度版日本私立学校振興・共済事業団の平成13年度の値で、同様に評は「 ▼ 低い値が良い △ 高い値がよい ～ どちらとも言えない」を示している。

関係比率の関係比率計算式

人件費比率	人件費÷経常収入
人件費依存率	人件費÷学生生徒等納付金
教育研究経費比率	教育研究経費÷経常収入
管理経費比率	管理経費÷経常収入
借入金等利息比率	借入金等利息÷経常収入
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入
基本金組入後収支比率	事業活動支出÷（事業活動収入－基本金組入額）
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金÷経常収入
寄付金比率	寄付金÷事業活動収入
経常寄付金比率	教育活動収支の寄付金÷経常収入
補助金比率	補助金÷事業活動収入
経常補助金比率	教育活動収支の補助金÷経常収入
基本金組入率	基本金組入額÷事業活動収入
減価償却額比率	減価償却額÷経常支出
経常収支差額比率	経常収支差額÷経常収入
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額÷教育活動収入計

事業活動収支計算書関係比率の説明（日本私立学校振興・共済事業団から抜粋）

人件費比率	人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因となる。教職員1人当たり人件費や学生生徒等に対する教職員数等の教育研究条件等にも配慮しながら、各学校の実態に適った水準を維持する必要がある。
-------	--

人件費依存率	人件費の学生生徒等納付金に占める割合を示す。この比率は人件費比率及び学生生徒等納付金比率の状況にも影響される。一般的に人件費は学生生徒等納付金で賄える範囲内に収まっている（比率が100%を超えない）ことが理想的であるが、学校の種類や系統・規模等により、必ずしもこの範囲に収まらない構造となっている場合もある点に留意が必要である。例えば高等学校においては学費軽減の観点から相当規模の補助金が交付されており、相対的に学生生徒等納付金が低い水準に抑えられている場合は、分母に補助金を加えて「修正人件費依存率」として評価することも有用である。
教育研究経費比率	教育研究経費の経常収入に占める割合である。教育研究経費には修繕費、光熱水費、消耗品費、委託費、旅費交通費、印刷製本費等の各種支出に加え教育研究用固定資産にかかる減価償却額が含まれている。また附属病院については医療経費がある。これらの経費は教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。なお、高等学校法人等では、教育研究経費と管理経費を区分していない場合もあり、この場合は両者を合算した「経費比率」として分析を行うこととなる。
管理経費比率	経常収入に対する管理経費の占める割合である。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。なお、管理経費と教育研究経費の区分、両者を合計した経費の支出状況や減価償却の程度等にも留意が必要である。
借入金等利息比率	経常収入に対する借入金等利息の占める割合である。この比率は、学校法人の借入金等の額及び借入条件等によって影響を受け、貸借対照表の負債状態が事業活動収支計算書にも反映しているため、学校法人の財務を分析する上で重要な財務比率の一つである。借入金等利息は外部有利子負債がなければ発生しないものであるため、この比率は低い方が望ましいとされる。
事業活動収支差額比率	事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合であり、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。このプラスの範囲内で基本金組入額が収まっていれば当年度の収支差額は収入超過となり、逆にプラス分を超えた場合は支出超過となる。この比率がマイナスになる場合は、当年度の事業活動収入で事業活動支出を賄うことができないことを示し、基本金組入前の段階で既に事業活動支出超過の状況にある。マイナスとなった要因が臨時的なものによる場合は別として、一般的にマイナス幅が大きくなるほど経営が圧迫され、将来的には資金繰りに支障をきたす可能性が否めない。
基本金組入後収支比率	事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率である。一般的には、収支が均衡する100%前後が望ましいと考えられるが、臨時的な固定資産の取得等による基本金組入れが著しく大きい年度において一時的に急上昇する場合もある。この比率の評価に際しては、この比率が基本金組入額の影響を受けるため、基本金の組入状況およびその内容を考慮する必要がある。
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金の経常収入に占める割合である。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の事業活動収入のなかで最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることが少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。この比率の評価に際しては、同時に学生生徒等納付金の内訳や学生生徒等1人当たりの納付金額、奨学金の支出状況も確認することが重要である。
寄付金比率	寄付金の事業活動収入に占める割合である。寄付金は私立学校にとって重要な収入源であり、一定水準の寄付金収入を継続して確保することが経営の安定のためには好ましいことである。しかし、寄付金は予定された収入ではないため年度による増減幅が大きくなる。周年事業の寄付金募集を行っている場合、事業の終了後に寄付金収入が大きく落ち込む例が典型的である。今後の

	学校経営においては、学内の寄付金募集体制を充実させ、一定水準の寄付金の安定的な確保に務めることの重要性が高まっている。
経常寄付金比率	上記寄付金比率につき経常的な要素に限定した比率である。
補助金比率	国又は地方公共団体の補助金の事業活動収入に占める割合である。学校法人において、補助金は一般的に学生生徒等納付金に次ぐ第二の収入源泉であり、今や必要不可欠なものである。私立学校が公教育の一翼を担う観点からも今後の補助金額の増加が大いに期待されている。しかしこの比率が高い場合、学校法人独自の自主財源が相対的に小さく、国や地方公共団体の補助金政策の動向に影響を受け易いこととなるため、場合によっては学校経営の柔軟性が損なわれる可能性も否定できない。
経常補助金比率	上記補助金比率につき経常的な要素に限定した比率である。
基本金組入率	事業活動収入の総額から基本金への組入れ状況を示す比率である。大規模な施設等の取得等を単年度に集中して行った場合は、一時的にこの比率が上昇することとなる。学校法人の諸活動に不可欠な資産の充実のためには、基本金への組入れが安定的に行われることが望ましい。したがってこの比率の評価に際しては、基本金の組入れ内容が単年度の固定資産の取得によるものか、第2号基本金や第3号基本金にかかる計画的な組入れによるものか等の組入れの実態を確認しておく必要がある。
減価償却額比率	減価償却額の経常支出に占める割合で、当該年度の経常支出のうち減価償却額がどの程度の水準にあるかを測る比率である。一方で、減価償却額は経費に計上されているが実際の資金支出は伴わないものであるため、別の視点では実質的には費消されずに蓄積される資金の割合を示したものと捉えることも可能である。
経常収支差額比率	経常的な収支バランスを表す比率として新設
教育活動収支差額比率	本業である教育活動の収支バランスを表す比率として新設

活動区分資金収支計算書関係比率

関係比率	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
教育活動資金収支差額比率	△67.8%	△50.2%	△50.0%	△67.2%	△85.1%

教育活動資金収支差額比率…教育活動資金収支差額÷教育活動資金収入計

活動区分資金収支計算書関係比率の説明（日本私立学校振興・共済事業団から抜粋）

教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率である。比率はプラスであることが望ましいが、「その他活動」でキャッシュフローを生み出し、教育研究活動の原資としている場合もあり得るため、「その他活動」の収支状況を併せて確認する必要がある。
--------------	---

(2) その他

①有価証券の状況

- ・種類、貸借対照表計上額、時価、差額等
- 該当なし

②借入金の状況

- ・借入先、期末残高、利率、返済期限等
- 該当なし

③学校債の状況

- ・発行年度、本年度末残高、利率、償還期限等

該当なし

④寄付金の状況

特別寄付金

- ・奨学寄付

令和 6 年度学術研究助成金

寄付金額：500,000 円

（公益財団法人ウエスコ学術振興財団）

- ・後援会からの助成

寄付金額：5,288,444 円

（校舎内清掃費用、学生通学用無料バス運行費用）

一般寄付金

- ・卒業寄付

寄付金額：680,000 円

⑤補助金の状況

国庫補助金

- ・令和 6 年度私立大学等経常費補助金

補助金額：28,321,000 円

（岡山短期大学：28,321,000 円）

- ・令和 6 年度授業料等減免費交付金

補助金額：13,490,100 円

（岡山学院大学：8,652,300 円、岡山短期大学：4,837,800 円）

地方公共団体補助金

- ・令和 6 年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業補助金

補助金額：180,000 円

- ・令和 6 年度おかやま子育てカレッジ地域貢献事業費補助金

補助金額：91,000 円

- ・令和 6 年度倉敷市結核健康診断費補助金

補助金額：53,900 円

（岡山学院大学：17,600 円、岡山短期大学：36,300 円）

監査報告書

学校法人原田学園

理事長 原 田 俊 孝 殿

作成日 令和 7 年 5 月 28 日

学校法人原田学園

監事

小野 聡



印

監事

三宅 俊 弘



印

私は、私立学校法第37条第3項の規定に基づいて、学校法人原田学園の令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書）を含め、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し監査を行いました。

監査の結果、学校法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以 上

監査報告書

学校法人原田学園

評議員会議長 殿

作成日 令和 7 年 5 月 28 日

学校法人原田学園

監事

小野 聡



監事

三宅 俊弘



私は、私立学校法第37条第3項の規定に基づいて、学校法人原田学園の令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書）を含め、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し監査を行いました。

監査の結果、学校法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以 上